

日本NPO学会震災特別プロジェクト  
**震災後の寄付・ボランティア等に関する  
意識調査報告書**

タケダ・いのちとくらし再生プログラム

2013年2月

日本NPO学会



## 目次

調査概要 .....	1
1. ボランティア関連用語の認知／震災後の復興関連寄付・ボランティア .....	2
ボランティア関連用語の認知 .....	2
ボランティア関連用語の認知（男女別） .....	3
ボランティア関連用語の認知（居住地区別） .....	5
震災後の復興関連寄付・ボランティア .....	7
震災後の復興関連寄付・ボランティア（広義） .....	10
2. 被災地ボランティア（人） .....	13
被災地ボランティアをした人の特徴 .....	13
ボランティア活動に参加できた理由 .....	14
被災地ボランティア活動の活動内容 .....	15
被災地ボランティアの総活動時間・費用負担 .....	16
災害ボランティアセンターへの登録状況 .....	17
参加窓口団体・組織／活動団体・組織 .....	18
ボランティア活動へ参加する前の準備 .....	19
被災地ボランティアの感想 .....	20
ボランティア活動で改善したほうがよいこと .....	21
被災地でボランティア活動をしなかった理由 .....	22
ボランティア活動をしなかった理由 .....	23
3. 物資支援（物） .....	24
物資支援（物）をした人の特徴 .....	24
支援物資を届けよう（送付）と思った理由 .....	25
届けた（送付した）支援物資 .....	26
支援物資の届け先（送付先） .....	27
支援物資の送付先選択理由 .....	28
支援物資の活用についての把握状況 .....	29
支援物資の未送付理由 .....	30

4. 寄付（金） .....	31
寄付（金銭寄付）をした人の特徴 .....	31
震災寄付総額 .....	32
寄付の種類別、震災寄付金額.....	34
東日本大震災に関して寄付をした理由 .....	35
東日本大震災に関して寄付をしたきっかけ.....	36
東日本大震災に関して寄付をした手段 .....	37
震災以外の寄付の動向（増やしたか減らしたか） .....	38
寄付をしなかった理由.....	39
5. その他.....	40
とくに何もしなかった人の特徴 .....	40
東日本大震災に関する支援情報の入手経路.....	41
入手した情報の内容 .....	42
困ったときに助け合いたい範囲 .....	43
東日本大震災の災害援助・復興活動への関心 .....	44
大規模な自然災害が起こった時のボランティア活動参加についての考え .....	45
ボランティアや社会に対する考え .....	46
東日本大震災後の意識や行動の変化.....	47
回答者属性.....	49

## <調査結果の概要>

### 1. ボランティア関連用語の認知／震災後の復興関連寄付・ボランティア

- NPOを知っている（意味もわかる）は51.1%、特定非営利活動法人では32.5%である。
- 各用語の知っている割合は、年代が上がるにつれ、高くなる傾向がみられる。また、NPOや特定非営利活動法人は、男性の方が知っている割合が高く、ボランティア・コーディネーターや災害ボランティアセンターは、女性の方が知っている割合が高い。
- 阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、スマトラ島沖地震を知っている（意味もわかる）も8～9割といずれも高い。
- 居住地区別で見ると、社会福祉協議会を知っている割合は、北陸や中国で高く、京浜で低い傾向がみられた。災害ボランティアセンターは、東北で知っている割合が他の地区より高い。
- 震災後のこれまでの寄付・ボランティア活動の状況を総括すると、被災地でのボランティア2.5%、支援物資送付8.0%、金銭寄付66.3%である。広義で捉えると、ボランティア3.6%、寄付（金銭・物資）67.9%、被災地の産品や復興支援商品購入、観光を含む経済支援37.7%。とくに何もしなかったは24.0%である。
- 自身を含め身近な存在に被災者がいる場合、何らかの支援をしている割合が高い。とくに何もしなかったは男性で高く、また、若年層で高い傾向がみられる。

## 2. 被災地ボランティア（人）

- 東日本大震災に関連して、震災発生後から1年半が経過したこれまでに「被災地でのボランティア活動に参加した」人は、全体の2.5%（132人）で、被災地のうち、「岩手・宮城・福島でのボランティア活動に参加した」人は、全体の2.3%（123人）であった。
- 被災地でのボランティア活動を行うにあたり、災害ボランティアセンターへ登録して活動した人は27.3%であった。また、被災地ボランティアの総活動時間（中央値）は20時間で、1回あたりの費用負担（中央値）は1万円であった。
- ボランティア活動参加の窓口となった団体・組織は、「職場」が29.5%と最も高く、次いで「NPO・NGO」（15.9%）、「災害ボランティアセンター」（14.4%）であった。一方、「個人やグループ単位で自主的に参加した」も18.9%を占めた。
- ボランティア活動へ参加する前の準備としては、「家族や知人にスケジュールを伝えた」が53.0%、「ボランティア活動をするための道具・装備等を購入した」が47.0%、「事前に研修／説明会を受けた」が32.6%であった。
- 現地で行ったボランティア活動に満足している人は、7割（「そう思う」「ややそう思う」の合計）で、現地でのボランティア活動が有意義だと感じている人は、9割（「そう思う」「ややそう思う」の合計）となっている。

## 3. 物資支援（物）

- 東日本大震災に関連して、震災発生後から1年半が経過したこれまでに「被災地（被災者）に支援物資を届けた（送った）」人は、全体の8.0%（422人）であった。
- 支援物資を届けようと思った理由としては、「自分にとって送りやすい物資だったから」が42.2%と最も高く、次いで「友人・知人から必要だと聞いたから」（34.1%）、「テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから」（25.8%）。届けた支援物資としては、「衣料品」が51.4%と最も高く、次いで「食糧・食料品」（44.1%）、「日用品」（37.4%）であった。
- 支援物資の届け先としては、「被災地の個人宅」が20.1%と最も高く、次いで「自ら居住する自治体」（19.9%）、「被災地の自治体」（16.8%）であった。
- 届けた支援物資の活用状況について、「特に確認していない」人は、届けた人の約半数（49.5%）であり、「報告（電話含む）やお礼状で確認した」人は28.7%、「新聞やテレビの報道をみて届いていると思った」人が11.1%であった。

#### 4. 寄付（金）

- 東日本大震災に関連して、震災発生後から1年半が経過したこれまでに「寄付（金銭での寄付）をした」人は、全体の66.3%（3,481人）であり、そのうち、寄付した金額を回答できた（覚えていた）人は65.0%であった。寄付額（中央値）は、7,250円であった。
- 「寄付（金銭での寄付）をした」人に、東日本大震災以外への寄付について、震災発生前と比べてどうなったかを聞いたところ、増やした（「大幅に増やした」「やや増やした」の合計）のは20.8%、変わらないが49.0%、減らした（「大幅に減らした」「やや減らした」の合計）は2.8%、東日本大震災以外には寄付（金銭での寄付）をしていないが27.3%であった。

#### 5. その他

- 東日本大震災の災害援助・復興活動への関心について、「関心がある」は79.3%である。東日本大震災後、とくに何もしなかった人でも「関心がある」は57.7%と高い。
- 大規模な自然災害が起こった時の一般の人々のボランティア活動について、「参加すべき」（必ず参加すべき+可能な人は参加すべきの合計）は71.5%である。東日本大震災後、とくに何もしなかった人でも「参加すべき」は53.7%と半数を超えている。
- 東日本大震災後の意識や行動について、それぞれに当てはまる人は、「政府にまかせるだけではいけないと思うようになった」（74.9%）、「国の税金の使い道に関心を持つようになった」（70.0%）、「家族の絆をより意識するようになった」（67.2%）、「自分は幸せだと思うようになった」（65.9%）となっている。
- 東日本大震災後、「ボランティアにより関心を持つようになった」は43.3%で、実際に「ボランティアをする機会が増えた」は13.2%となっている。



本調査は、日本 NPO 学会・日本 NPO センター連携事業「東日本大震災における民間支援の軌跡と動向調査」(タケダ・いのちとくらし再生プログラム)の一環として行ったものである。

## 調査概要

調査手法	・インターネット調査 (インテージ・ネットモニター)
調査地域	・全国
対象者条件	・20～69歳の男女
職業除外条件	・本人および同居家族が次の職業に従事している場合は除外 マスコミ・広告/市場調査
標本抽出方法 割付	・インテージ・ネットモニター“キューモニター”20～69歳の男女 ・平成22年度国勢調査ベース
有効回収数	・配信数：15,233s    ・有効回収数：5,253s    ・有効回収率：34.5%
調査実施時期	・2012年7月10日(火)～2012年7月13日(金)

## サンプル構成

	TOTAL	20代	30代	40代	50代	60代
TOTAL	5,253	846	1,099	1,134	1,000	1,174
男性	2,624	428	555	572	499	570
女性	2,629	418	544	562	501	604

	TOTAL	20代	30代	40代	50代	60代
TOTAL	5,253	846	1,099	1,134	1,000	1,174
北海道	226	32	45	48	48	53
東北	365	55	70	74	80	86
関東	323	50	65	68	65	75
京浜	1,544	263	346	355	266	314
北陸	298	43	59	63	62	71
東海	617	101	132	136	112	136
京阪神	856	141	177	187	155	196
中国	302	47	62	60	60	73
四国	149	22	28	30	30	39
九州	573	92	115	113	122	131

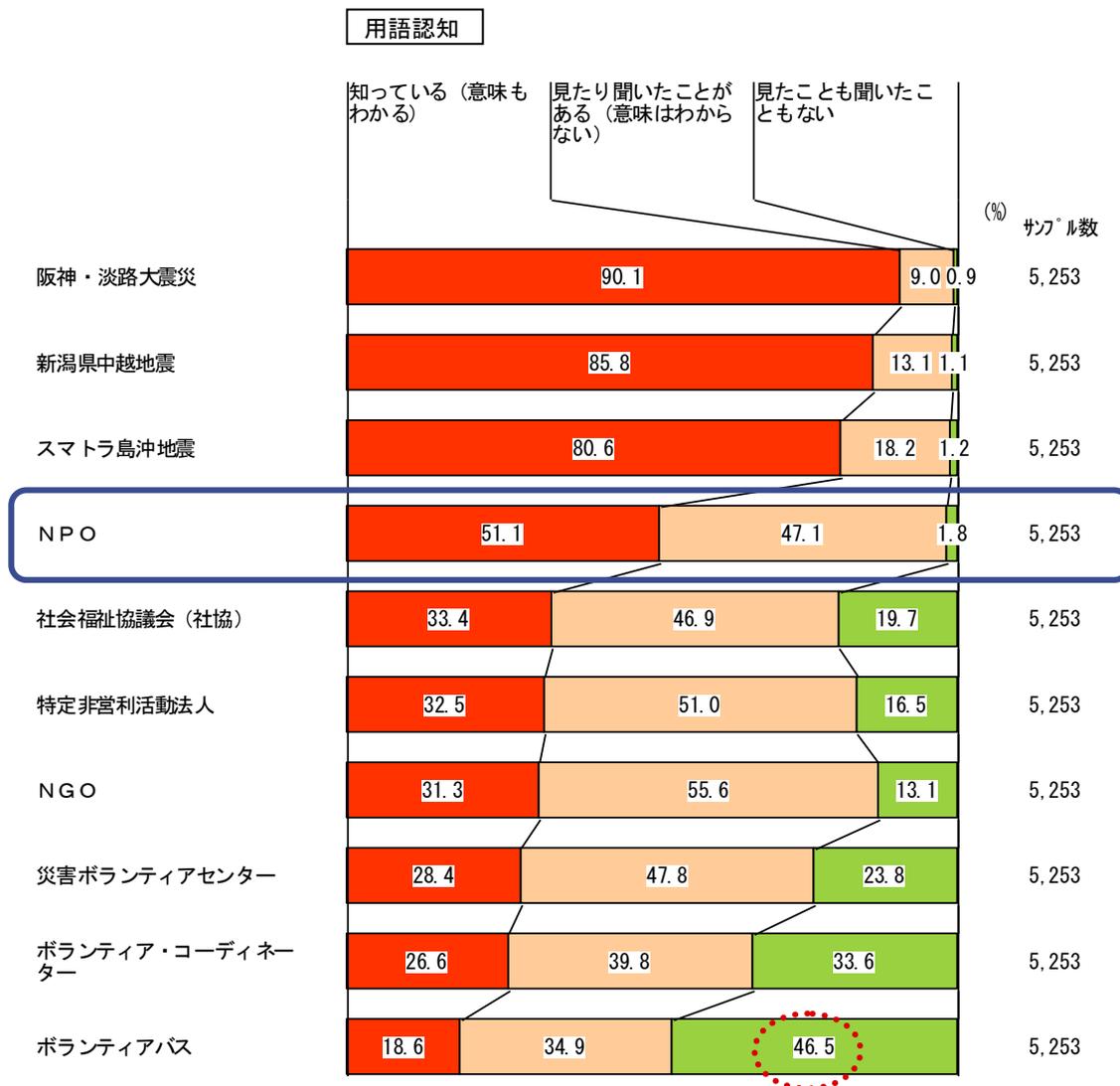
# 1. ボランティア関連用語の認知／震災後の復興関連寄付・ボランティア

## ボランティア関連用語の認知

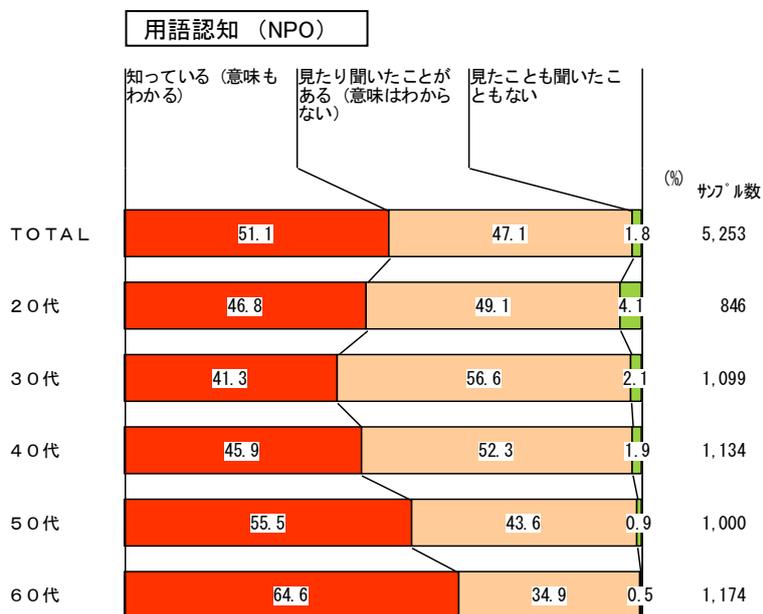
阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、スマトラ沖地震の認知は100%に近く、「知っている（意味もわかる）」も90.1%、85.8%、80.6%と高い。

NPOの認知も100%に近いが、知っている（意味もわかる）は51.1%である。特定非営利活動法人の認知は83.5%、知っている（意味もわかる）は32.5%である。

ボランティアバスは、見たことも聞いたこともないが46.5%と半数近くを占めている。



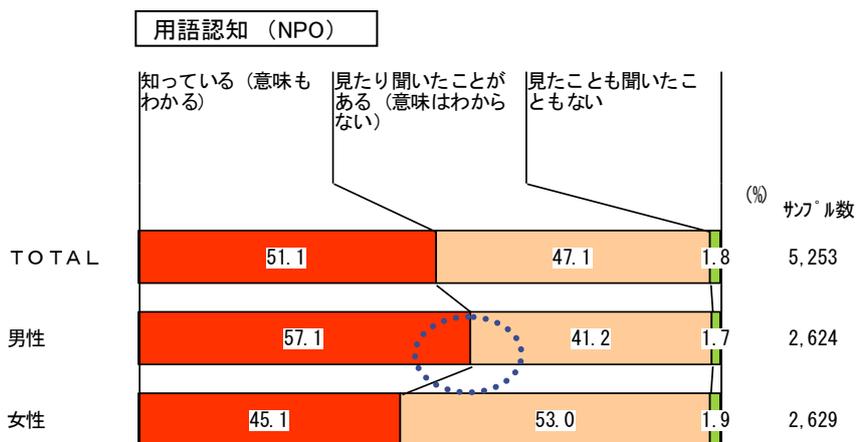
NPO の認知度は年代が上がるにつれ、高くなる傾向が見られる。  
 20代では、「知っている（意味もわかる）」が46.8%と30代（41.3%）より高い。



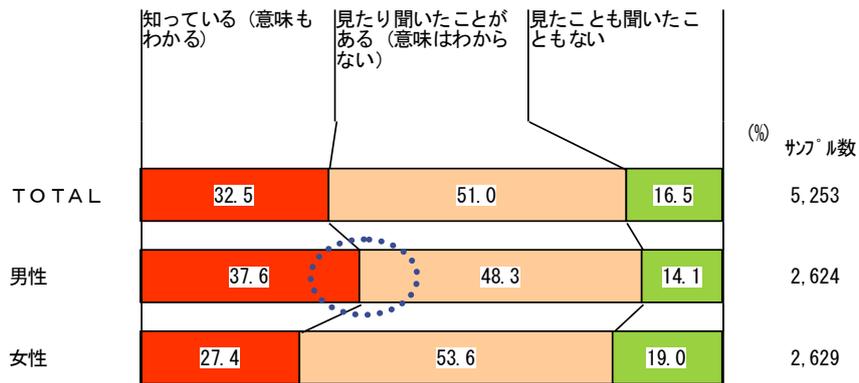
### ボランティア関連用語の認知（男女別）

「知っている（意味もわかる）」は、NPO で男性 57.1%、女性 45.1%であり、特定非営利活動法人では、男性 37.6%、女性 27.4%とともに男性の方が高い。

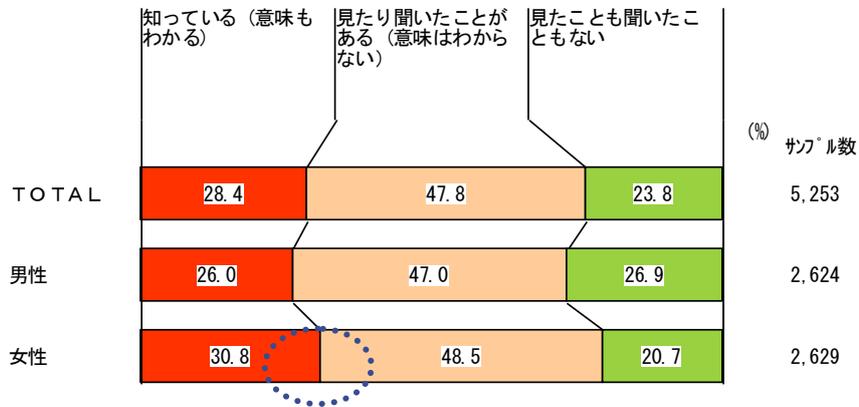
一方、災害ボランティアセンターで男性 26.0%、女性 30.8%、ボランティア・コーディネーターでは、男性 23.2%、女性 30.0%と女性の方が高い。



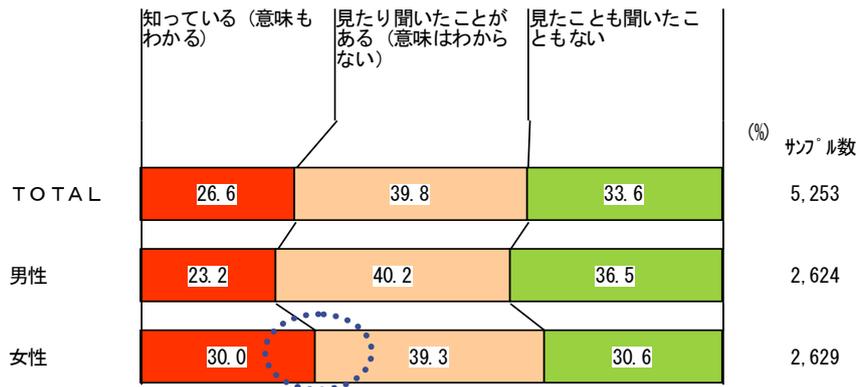
用語認知（特定非営利活動法人）



用語認知（災害ボランティアセンター）

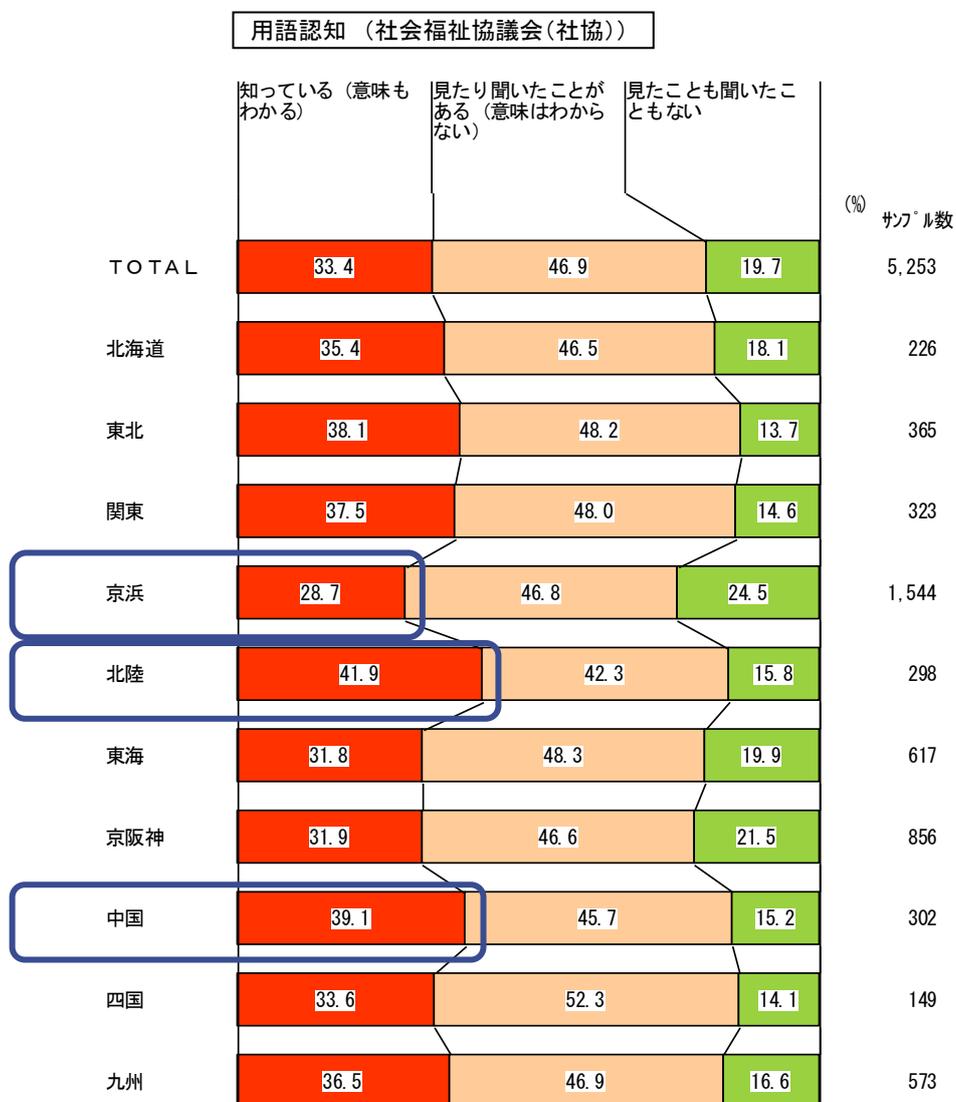


用語認知（ボランティア・コーディネーター）

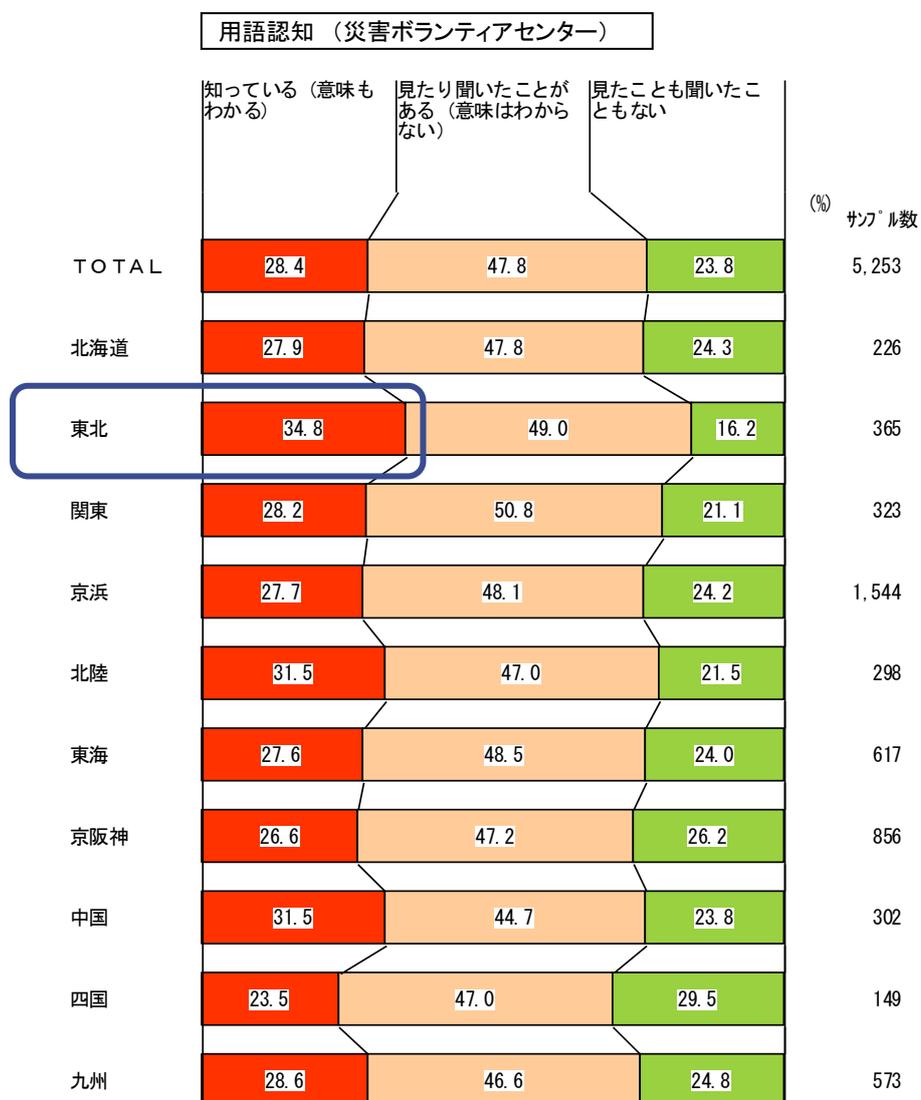


## ボランティア関連用語の認知（居住地区別）

居住地区別にみると、社会福祉協議会（社協）を「知っている（意味もわかる）」割合は北陸、中国で高く、京浜で低い。



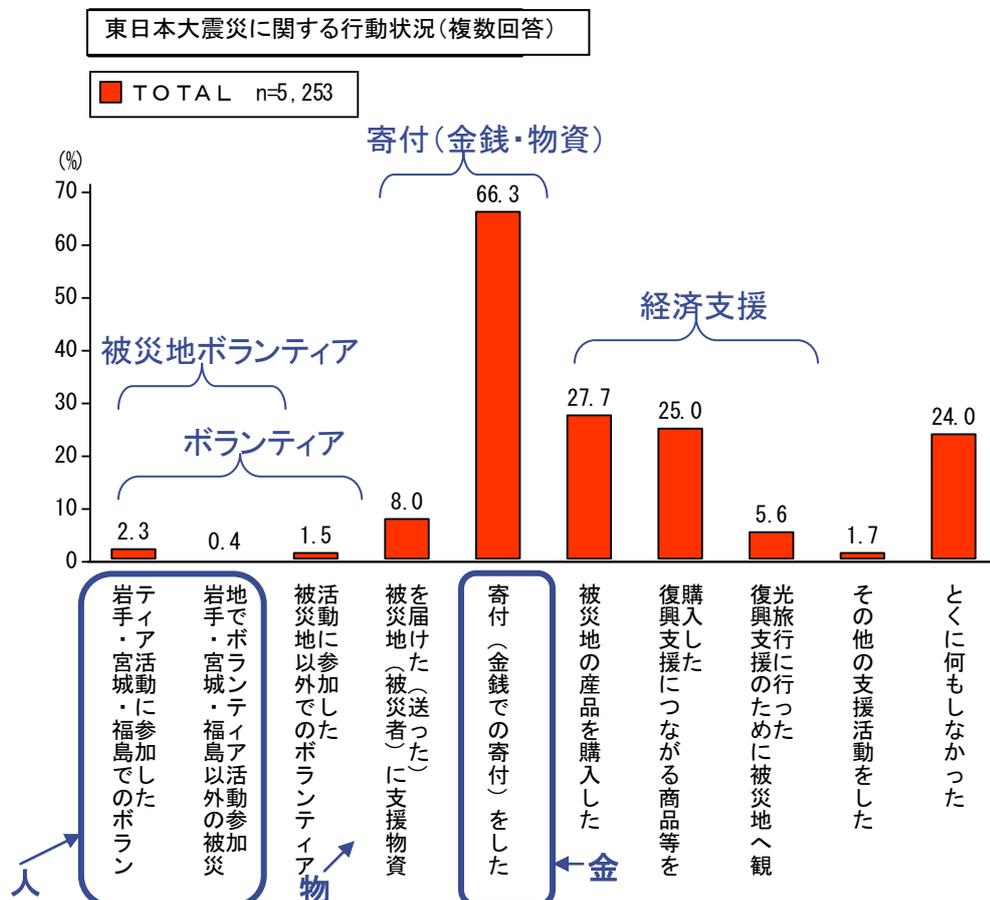
居住地区別にみると、災害ボランティアセンターを「知っている（意味もわかる）」割合は東北で高い。



## 震災後の復興関連寄付・ボランティア

東日本大震災に関連した行動状況（複数回答）を聞いたところ、被災地「岩手・宮城・福島でのボランティア活動に参加した」は2.3%、「岩手・宮城・福島以外の被災地でのボランティア活動に参加した」は0.4%、「被災地以外でのボランティア活動に参加した」は1.5%であった。また、「被災地（被災者）に支援物資を届けた（送った）」は8.0%、「寄付（金銭での寄付）をした」は66.3%であった。「被災地の産品を購入した」は27.7%、「復興支援につながる商品等を購入した」25.0%、「復興支援のために被災地へ観光旅行に行った」5.6%、「その他の支援活動をした」は1.7%、「とくに何もしなかった」は24.0%となっている。

本調査では、ボランティア活動を「他人や社会のために、自発的に労務を提供すること（家族に対して行う活動は除く）。交通費などの経費や謝礼金が支払われるボランティアも含む」と定義した。また、支援物資は、「あなたご自身や家族のためではなく、被災地や被災者に対して、金銭以外の物品（家具・車・パソコン・電気製品、衣料品、食料品、医療品、日用品、玩具、書籍・文具、商品券、書き損じはがき、金歯、不動産、株式、絵画など）を自発的に提供する行為」とした。金銭での寄付は、「あなたご自身や家族のためではなく、募金活動や社会貢献等に対して、金銭を自発的に提供する行為のこと。義援金や活動支援金も寄付に該当する。クレジットカードやマイレージカードのポイント還元、クリック募金、寄付付き商品などによる寄付も含む。NPO 法人・公益法人などの正会員費・賛助会費などの年会費、日本赤十字社の社資、職能団体などの会費、同窓会費、町内会費などに該当するものは含まない」と定義した。



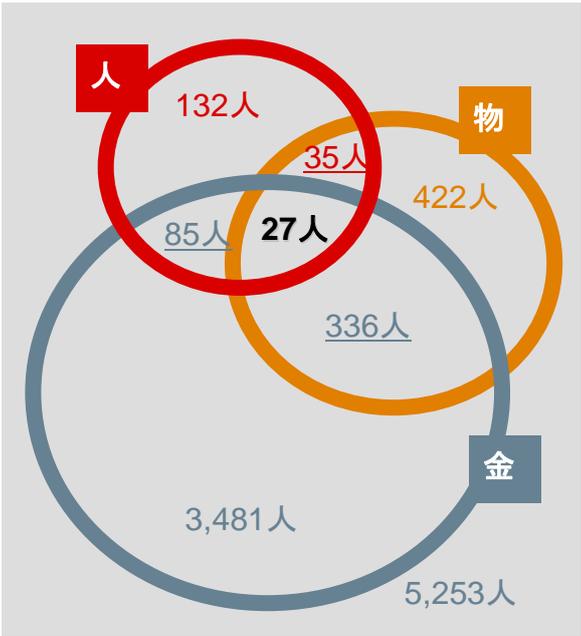
東日本大震災に関する行動状況（複数回答）を、「人（被災地でのボランティア活動に参加）」「物（被災地（被災者）に支援物資を届けた）」「金（寄付（金銭での寄付をした）」という視点で、再集計すると、被災地（岩手・宮城・福島または3県以外の被災地）でボランティア活動をした人は、2.5%となる。（複数回答を人数ベースで集計）

「人」「物」「金」の行動の相互関係をみると、「被災地でのボランティア活動に参加」かつ「金銭での寄付をした」は回答者全体の1.6%、「被災地（被災者）に支援物資を届けた」かつ「金銭での寄付をした」は回答者全体の6.4%となっている。

また、被災地でのボランティア活動をした人のうち、「金銭での寄付をした」は64%、「被災地（被災者）に支援物資を届けた」は27%であり、被災地（被災者）に支援物資を届けた人のうち、「金銭での寄付をした」は80%、「被災地でのボランティア活動に参加した」は8%である。金銭での寄付をした人のうち、「被災地でのボランティア活動に参加した」は2%、「被災地（被災者）に支援物資を届けた」は10%となっている。

ちなみにいずれも行った人は、全体で0.5%（27人）であった。

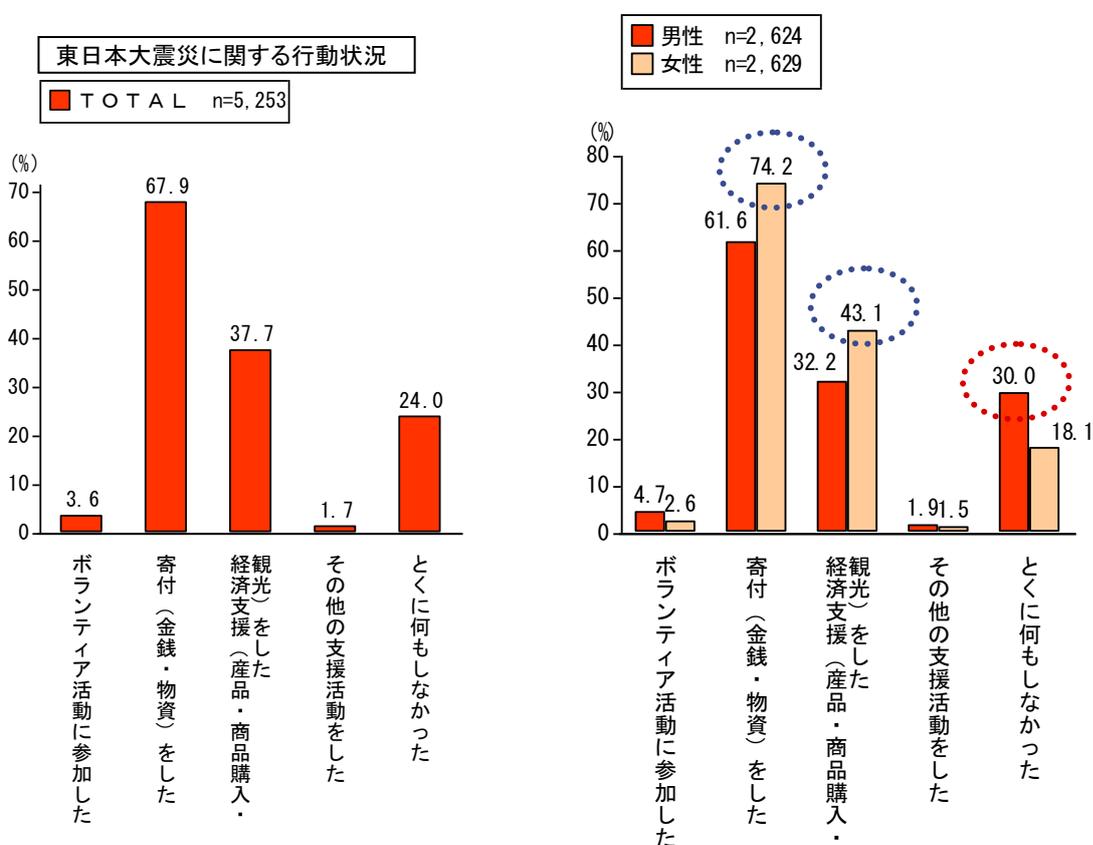
全体に対する%		人	物	金
人	被災地でのボランティア活動に参加した	2.5%	0.7%	1.6%
物	被災地（被災者）に支援物資を届けた	-	8.0%	6.4%
金	寄付（金銭での寄付）をした	-	-	66.3%
縦%		人	物	金
人	被災地でのボランティア活動に参加した	100%	8%	2%
物	被災地（被災者）に支援物資を届けた	27%	100%	10%
金	寄付（金銭での寄付）をした	64%	80%	100%
人数ベース(n)		人	物	金
人	被災地でのボランティア活動に参加した	132	35	85
物	被災地（被災者）に支援物資を届けた	35	422	336
金	寄付（金銭での寄付）をした	85	336	3,481



## 震災後の復興関連寄付・ボランティア（広義）

東日本大震災に関する行動状況（複数回答）について、前頁をさらに広義に再集計したところ、被災地及び被災地以外を合わせて、いずれかで「ボランティア活動に参加した」は3.6%、「被災地（被災者）に支援物資を届けた（送った）」と「寄付（金銭での寄付）をした」を合わせ、「寄付（金銭または物資）をした」は67.9%、「被災地の産品を購入した」、「復興支援につながる商品等を購入した」、「復興支援のために被災地へ観光旅行に行った」を合わせて、いずれかの「経済支援（産品・商品購入・観光）をした」は37.7%となる。

なお、性別でみると、「寄付（金銭・物資）をした」、「経済支援（産品・商品購入・観光）をした」はともに女性のほうが男性より高く、男性では「特に何もしなかった」が女性より高い。



性・年代別でみると、「ボランティア活動に参加した」は男性 20 代・30 代で高く、「寄付（金銭・物資）をした」は男性より女性の方がどの年代でも高い。また、「経済支援（産品・商品購入・観光）をした」は男女ともに年代が上がるにつれ、高くなる傾向がみられ、男女とも 60 代が最も高い。「その他の支援活動」としては、ポイント寄付や献血や募金活動、イベント開催など様々な活動があげられていたが、経済支援同様に男女ともに年代が上がるにつれ、高くなる傾向がみられる。「とくに何もしなかった」は 60 代を除き、男性はどの年代も 30%以上と高いが、男性 20 代では最も高く、また、女性 20 代も高い。

東日本大震災に関する行動状況

		1	2	3	4	5
		ボランティア活動に参加した	寄付（金銭・物資）をした	観光（経済支援）をした （産品・商品購入・	その他の支援活動をした	とくに何もしなかった
* 性別 × 年代	n					
0 TOTAL	5,253	3.6	67.9	37.7	1.7	24.0
1 男性 20 代	428	7.5	52.1	22.7	1.2	38.8
2 男性 30 代	555	5.8	63.2	29.4	1.4	30.1
3 男性 40 代	572	3.5	60.8	31.6	1.7	30.2
4 男性 50 代	499	3.8	59.5	31.9	1.8	31.1
5 男性 60 代	570	3.5	69.8	42.8	3.0	21.9
6 女性 20 代	418	3.3	61.0	31.8	0.7	30.6
7 女性 30 代	544	1.5	75.2	39.5	0.7	17.3
8 女性 40 代	562	3.2	70.5	41.3	1.4	19.8
9 女性 50 代	501	1.8	77.0	48.5	2.4	14.6
10 女性 60 代	604	3.1	83.4	51.5	2.0	11.6

数表中の○△について ※比率の差の検定(有意水準0.05、両側検定)を実施

○は比較行と比べ有意に高い。△は有意に低い。

ただし、TOTAL行との差は参考値、以下同

身近な人の東日本大震災での被災の有無と行動の関係をみると、ボランティア活動への参加は、自身を含め、身近な人が被災しているほど高く、自分自身が被災では、10.0%となっている。寄付（金銭・物資）は、友人・知人が被災で71.4%と高い一方、自分自身、家族、親戚が被災では低くなっている。経済支援に関しては、いずれも身近な人が被災で高くなっている。

東日本大震災に関する行動状況

	TOTAL (n) (%)	ボランティ ア活動に 参加した	寄付(金 銭・物資) をした	経済支援 (産品・商 品購入・ 観光)をし た	その他の 支援活動 をした	とくに何も しなかった
TOTAL	5,253	3.6	67.9	37.7	1.7	24.0
自分自身 被災した	489	10.0	56.6	45.0	2.9	27.0
家族 被災した	558	8.4	59.7	48.4	2.9	23.7
親戚 被災した	786	7.6	66.4	51.1	2.7	20.1
友人・知人 被災した	1,404	7.8	71.4	54.2	3.5	16.2

※TOTALは被災した含む。寄付(物資)については親戚等への送付は含んでいない。

## 2. 被災地ボランティア（人）

### 被災地ボランティアをした人の特徴

被災地ボランティアをした人は、全体では2.5%、男性（3.7%）のほうが女性（1.4%）より高い。

年代別でみると、20代が4.0%と他の年代より高い。

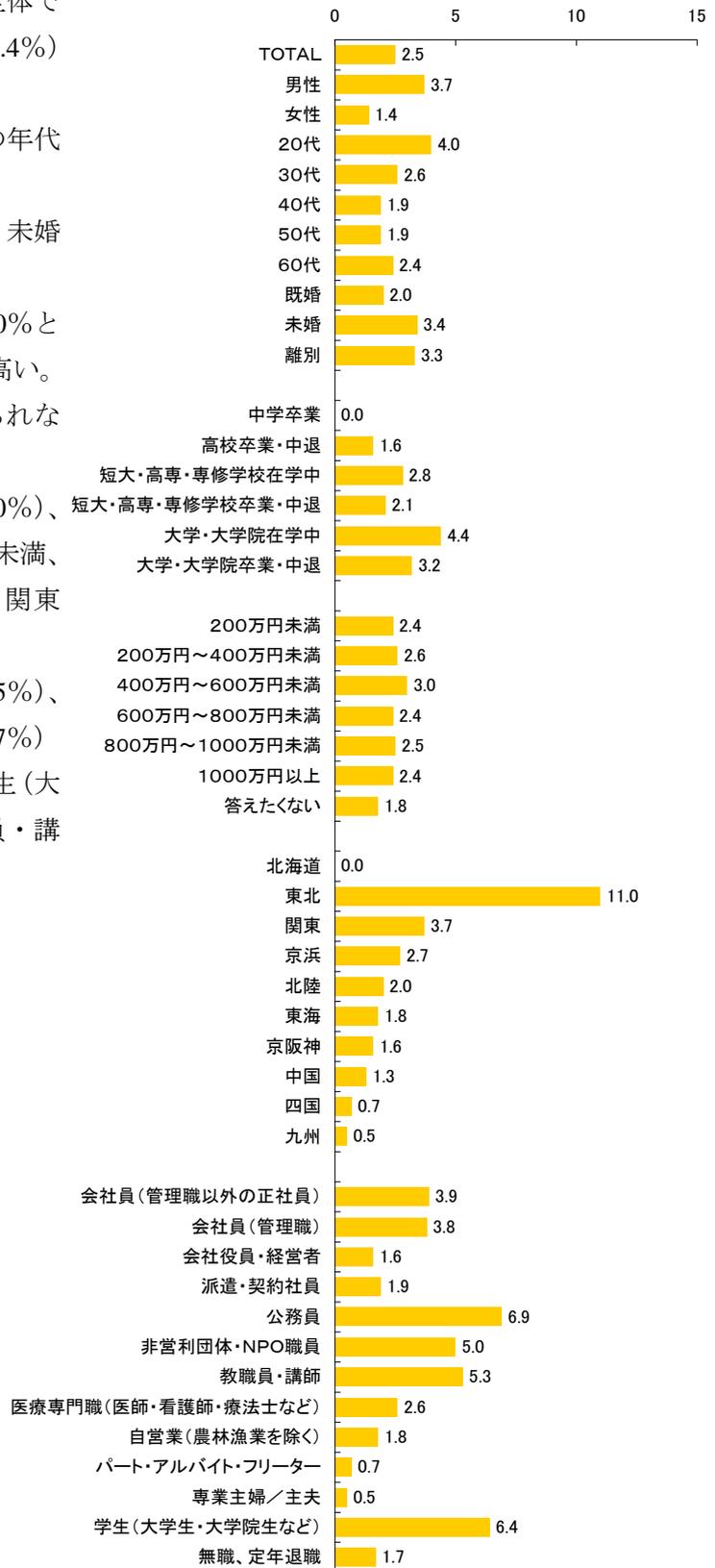
未婚別でみると、既婚は2.0%で、未婚（3.4%）、離別（3.3%）のほうが高い。

最終学歴別でみると、中学卒業は0.0%と低く、大学・大学院在学中は4.4%と高い。

世帯年収別みると、差はあまり見られない。

居住エリア別でみると、北海道（0.0%）、九州（0.5%）、四国（0.7%）では1%未満、東北（11.0%）は10%以上と高く、関東（3.7%）がついで高くなっている。

職業別でみると、専業主婦／主夫（0.5%）、パート・アルバイト・フリーター（0.7%）で1%未満と低く、公務員（6.9%）、学生（大学生・大学院生など）（6.4%）、教職員・講師（5.3%）では高い。



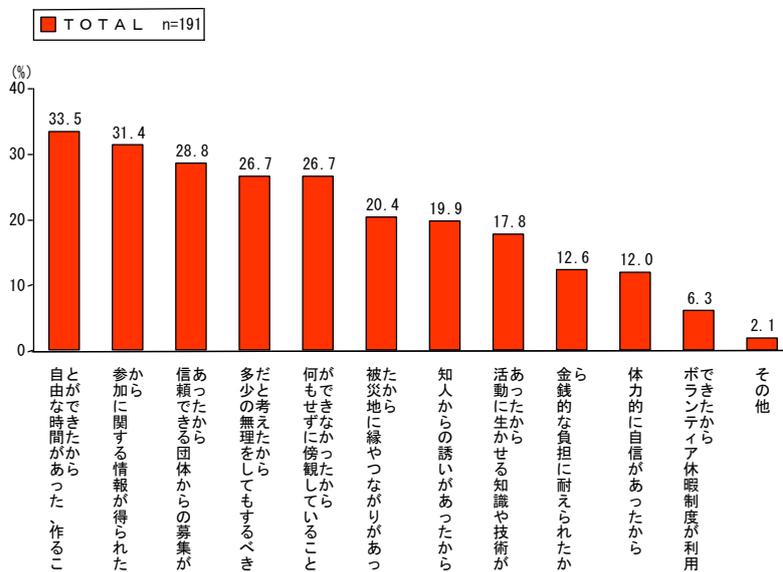
## ボランティア活動に参加できた理由

ボランティア活動に参加できた理由としては、「自由な時間があった、作ることができたから」が33.5%と最も高く、ついで「参加に関する情報が得られたから」(31.4%)、「信頼できる団体からの募集があったから」(28.8%)となっている。

性別でみると、女性では、「参加に関する情報が得られたから」、「信頼できる団体からの募集があったから」が理由の1位となっており、一方、男性では、「自由な時間があった、作ることができたから」が1位、ついで「多少の無理をしてもするべきだと考えたから」となっている。

年代別でみると、20代では「体力的に自信があったから」(5位)、60代では「活動に生かせる知識や技能があったから」(2位)など、特徴も見られる。

ボランティア活動に参加できた理由(複数回答)【ベース:ボランティア参加者(被災地以外含む)】



### ※上位5位まで抜粋

属性	n	1位	2位	3位	4位	5位	同率5位
全体	191	自由な時間があった、作ることができたから	参加に関する情報が得られたから	信頼できる団体からの募集があったから	多少の無理をしてもするべきだと考えたから	(4位)何もせずに傍観していることができなかったから	
男性	123	自由な時間があった、作ることができたから	多少の無理をしてもするべきだと考えたから	何もせずに傍観していることができなかったから	参加に関する情報が得られたから	被災地に縁やつながりがあったから	
女性	68	参加に関する情報が得られたから	(1位)信頼できる団体からの募集があったから	自由な時間があった、作ることができたから	何もせずに傍観していることができなかったから	知人からの誘いがあったから	
20代	46	自由な時間があった、作ることができたから	知人からの誘いがあったから	信頼できる団体からの募集があったから	何もせずに傍観していることができなかったから	金銭的な負担に耐えられたから	(5位)参加に関する情報が得られたから (5位)体力的に自信があったから
30代	40	多少の無理をしてもするべきだと考えたから	自由な時間があった、作ることができたから	(2位)参加に関する情報が得られたから	(2位)何もせずに傍観していることができなかったから	被災地に縁やつながりがあったから	
40代	38	参加に関する情報が得られたから	自由な時間があった、作ることができたから	(2位)信頼できる団体からの募集があったから	(2位)何もせずに傍観していることができなかったから	被災地に縁やつながりがあったから	(5位)多少の無理をしてもするべきだと考えたから
50代	28	参加に関する情報が得られたから	(1位)信頼できる団体からの募集があったから	自由な時間があった、作ることができたから	(3位)知人からの誘いがあったから	多少の無理をしてもするべきだと考えたから	
60代	39	何もせずに傍観していることができなかったから	活動に生かせる知識や技術があったから	参加に関する情報が得られたから	(3位)多少の無理をしてもするべきだと考えたから	自由な時間があった、作ることができたから	(5位)被災地に縁やつながりがあったから

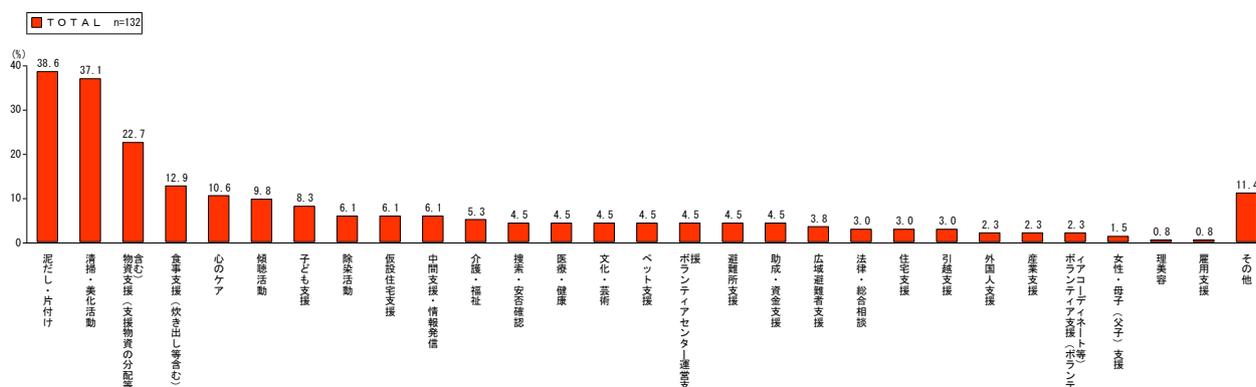
## 被災地ボランティア活動の活動内容

被災地ボランティア活動の活動内容としては、「泥だし・片付け」が 38.6%と最も高く、ついで「清掃・美化活動」(37.1%)、「物資支援（支援物資の分配等含む）」(22.7%) となっている。

性別でみると、男性では、「泥だし・片付け」が活動内容の1位、女性では、「清掃・美化活動」が1位となっているが傾向に差はさほど見られない。

年代別でみると、30代では他の年代より「泥だし・片付け」(1位)を行った人が多く、60代では「物資支援」が1位など、特徴も見られる。

被災地ボランティア活動の活動内容(複数回答)【ベース:被災地ボランティア参加者】



### ※上位5位まで抜粋

属性	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	132	泥だし・片付け	清掃・美化活動	物資支援	食事支援	その他
男性	96	泥だし・片付け	清掃・美化活動	物資支援	食事支援	(4位)その他
女性	36	清掃・美化活動	泥だし・片付け(2位)	物資支援	食事支援	傾聴活動
20代	34	泥だし・片付け	清掃・美化活動	物資支援	傾聴活動	食事支援
30代	29	泥だし・片付け	清掃・美化活動	物資支援	(3位)食事支援	捜索・安否確認
40代	22	泥だし・片付け	清掃・美化活動	物資支援	その他	心のケア／広域避難者支援
50代	19	清掃・美化活動	物資支援	泥だし・片付け	食事支援	心のケア
60代	28	物資支援	その他	傾聴活動	(3位)心のケア	清掃・美化活動／子ども支援

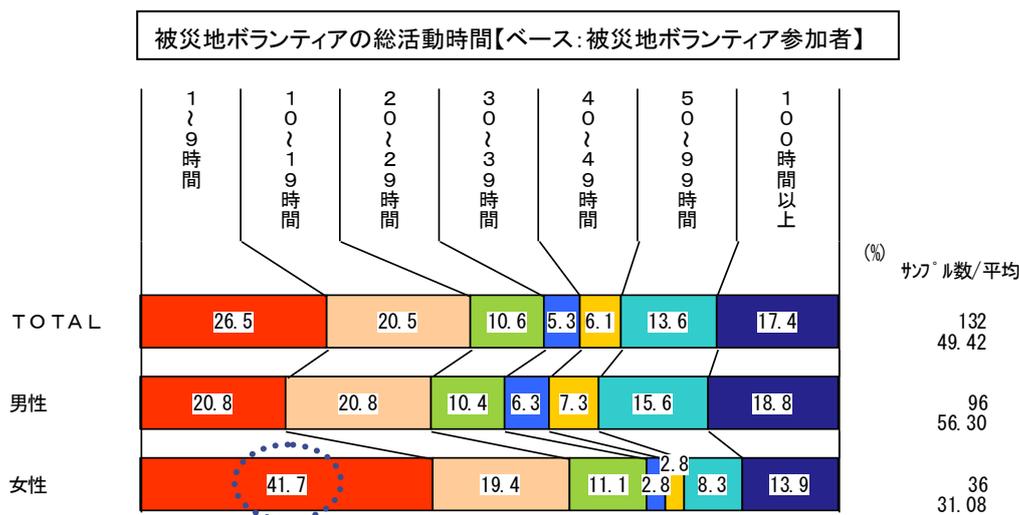
※物資支援(支援物資の分配等含む)、食事支援(炊き出し等含む)

## 被災地ボランティアの総活動時間・費用負担

被災地ボランティアの総活動時間は、「1～9 時間」が 26.5%と最も高く、ついで「10～19 時間」(20.5%)、「100 時間以上」(17.4%) となっている。

活動時間の平均値は 49.4 時間で、中央値では 20 時間である。

女性では、「1～9 時間」が 41.7%と男性 (20.8%) より高い。

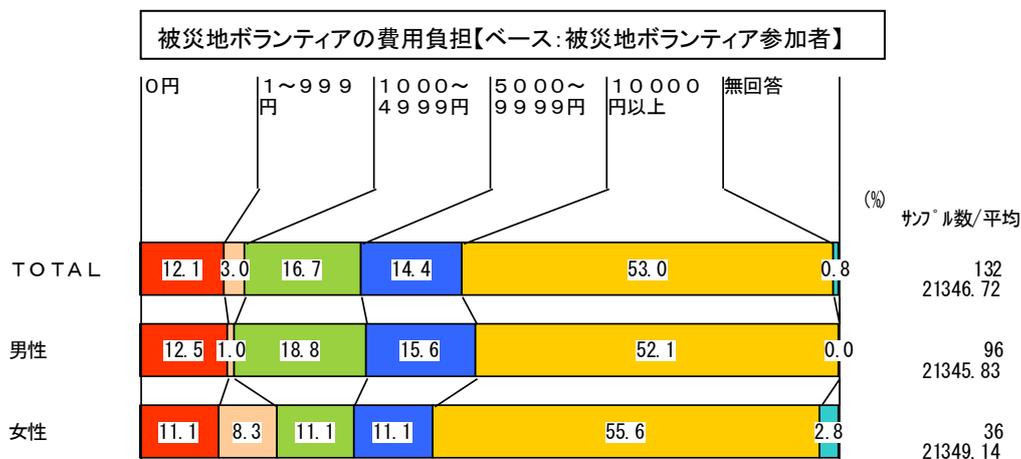


中央値：20 時間 (男性：24 時間 女性：11 時間)

最大値：370 時間 最小値：3 時間

被災地ボランティア活動における費用負担は、「10,000 円以上」が 53.0%と最も高く、ついで「1,000～4,999 円」(16.7%)、「5,000～9,999 円」(16.7%) となっている。

活動時間の平均値は 21,347 円で、中央値では 10,000 円である。



中央値：10,000 円 (男性：10,000 円 女性：10,000 円)

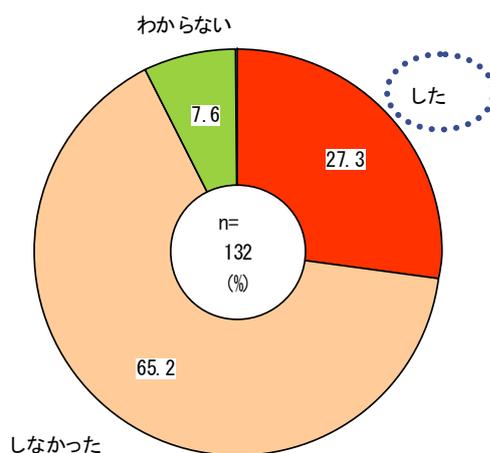
最大値：150,000 円

## 災害ボランティアセンターへの登録状況

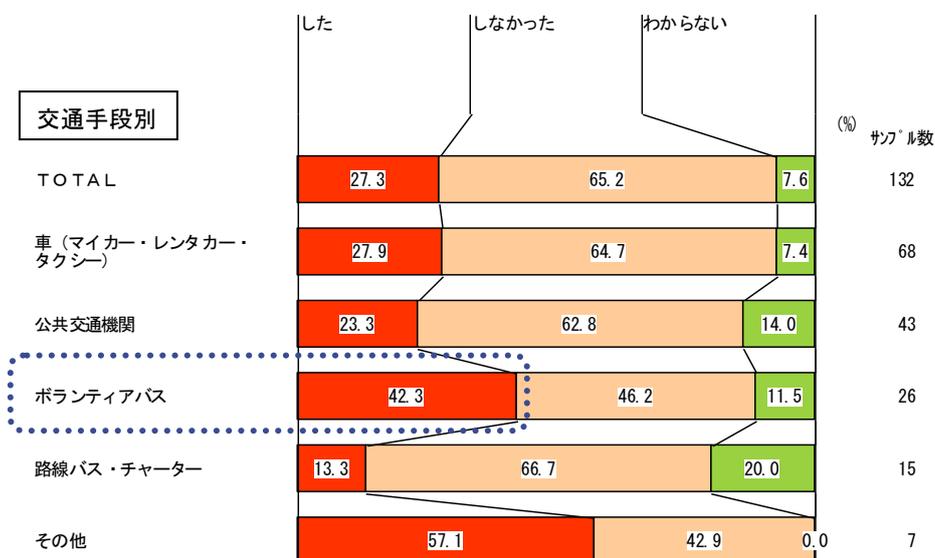
災害ボランティアセンターへ登録を「した」が27.3%、「しなかった」が65.2%、「わからない」が7.6%となっている。

ボランティア活動先までの交通手段別でみると、ボランティアバスを利用した人では、災害ボランティアセンターへ登録を「した」が42.3%と高くなっている。

災害ボランティアセンターへの登録状況【ベース:被災地ボランティア参加者】



災害ボランティアセンターへの登録状況【ベース:被災地ボランティア参加者】

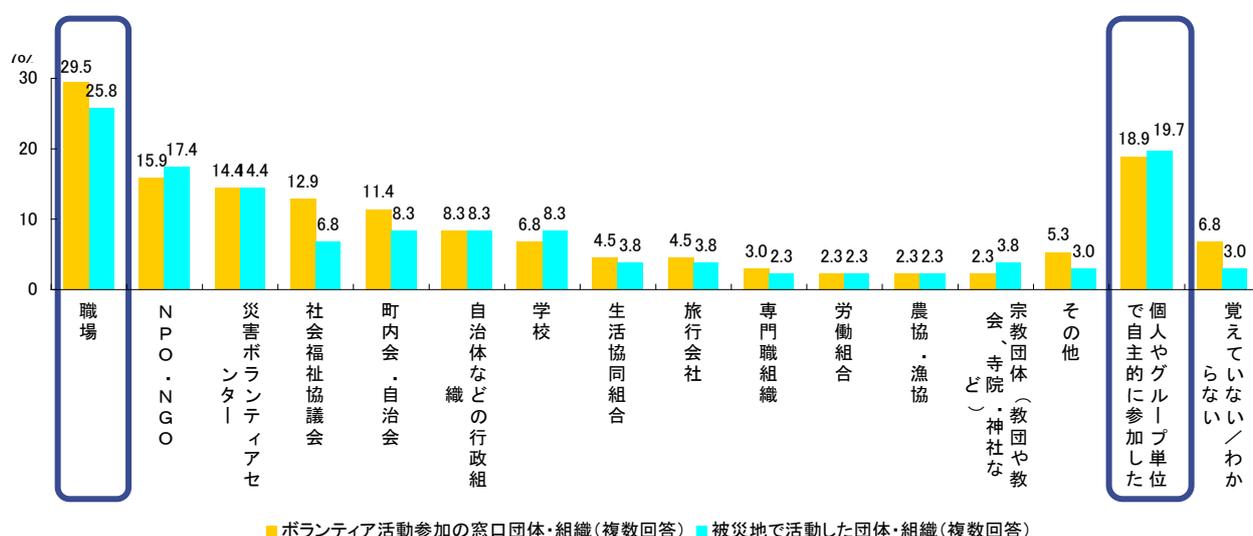


## 参加窓口団体・組織／活動団体・組織

参加窓口団体・組織としては、「職場」が 29.5%と最も高く、ついで、「NPO・NGO」(15.9%)となっている。一方、「個人やグループ単位で自主的に参加した」も 18.9%と高い。

活動団体・組織としては、「職場」が 25.8%と最も高く、ついで「個人やグループ単位で自主的に参加した」(19.7%)、「NPO・NGO」(17.4%)となっている。

参加窓口団体・組織(複数回答)／活動団体・組織(複数回答)  
【ベース:被災地ボランティア参加者】



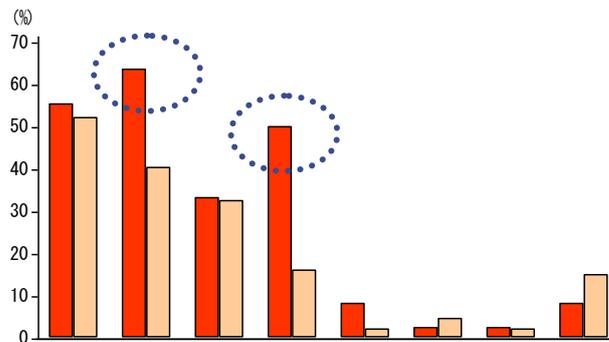
## ボランティア活動へ参加する前の準備

ボランティア活動へ参加する前の準備としては、「家族や知人にスケジュールを伝えた」が 53.0%と最も高く、ついで「ボランティア活動をするための道具・装備等を購入した」(47.0%)、「事前に研修を受けた」(32.6%) となっている。

災害ボランティアセンターへ登録した人としなかった人を比較すると、登録した人のほうが、「ボランティア活動をするための道具・装備等を購入した」(63.9%)、「事前にボランティア保険など保険に自分で入った」(50.0%)が高い。

ボランティア活動へ参加する前の準備(複数回答)  
【ベース:被災地ボランティア参加者】

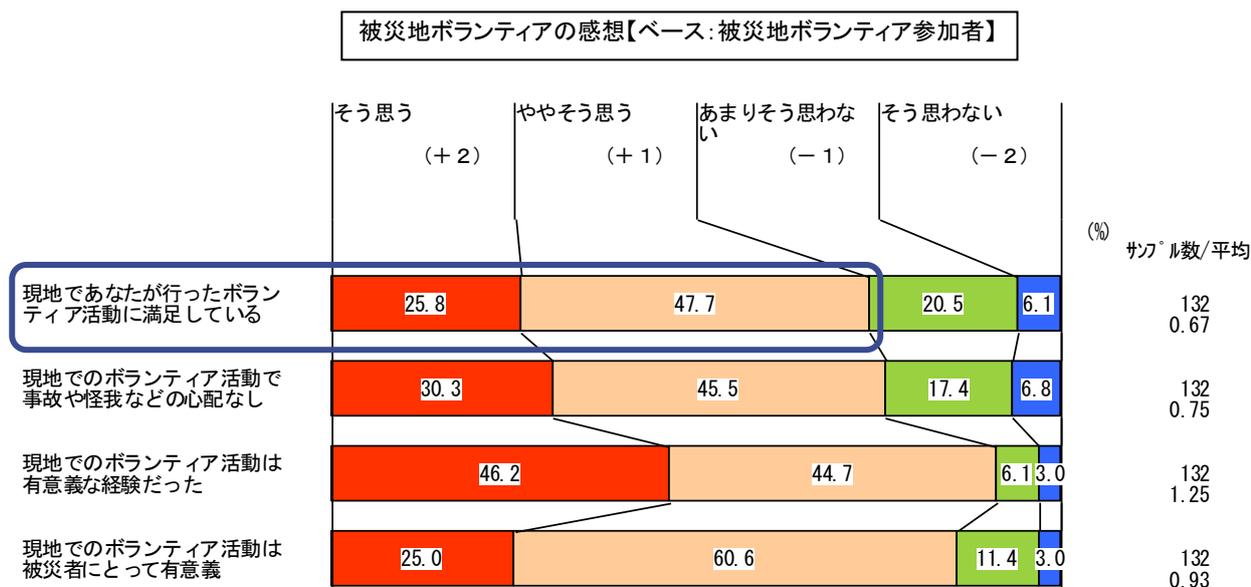
■ した n=36  
■ しなかった n=86



Q27 災害ボランティアセンターへの登録状況【ベース:被災地ボランティア参加者】	n	6	3	1	2	5	4	7	8
		家族や知人にスケジュールを伝えた	ボランティア活動をするための道具・装備等を購入した	事前に研修を受けた	事前に自分で入った保険など	ボランティア申請をした	事前に感染症の予防接種を受けた	その他	特に何もしていない
0 TOTAL	132	53.0	47.0	32.6	27.3	4.5	3.8	2.3	13.6
1 した	36	55.6	63.9	33.3	50.0	8.3	2.8	2.8	8.3
2 しなかった	86	52.3	40.7	32.6	16.3	2.3	4.7	2.3	15.1
3 わからない	10	50.0	40.0	30.0	40.0	10.0	0.0	0.0	20.0

## 被災地ボランティアの感想

被災地ボランティアの感想としては、「現地でのボランティア活動は有意義な経験だった」（そう思う＋ややそう思うの合計）が 90.9%、「現地でのボランティア活動は被災者にとっても有意義だった」が 85.6%と高く、「現地で行ったボランティア活動に満足している」も 73.5%となっている。また、「現地でのボランティア活動で事故や怪我などの心配はなかった」が 75.8%であった。

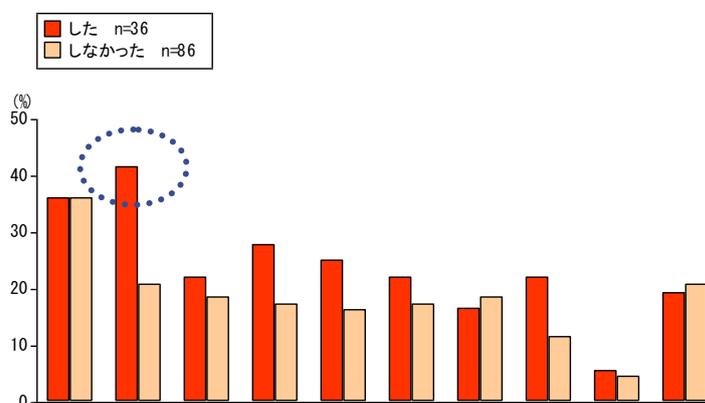


## ボランティア活動で改善したほうがよいこと

(被災地) ボランティア活動で改善したほうがよいことは、「活動の手配」が 35.6%と最も高く、ついで「ボランティアの道具・装備等」(25.0%)、「ボランティア休暇制度」(20.5%)となっている。

災害ボランティアセンターへ登録した人としなかった人を比較すると、登録した人のほうが、「ボランティアの道具・装備等」(41.7%)が高くなっている。

ボランティア活動で改善したほうがよいこと（複数回答）  
【ベース:被災地ボランティア参加者】



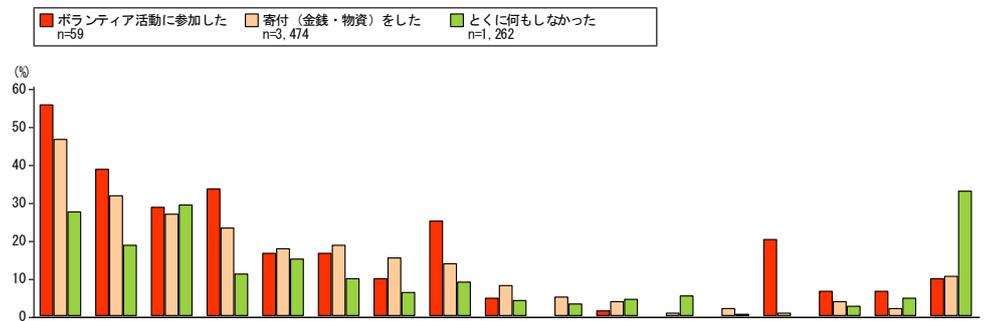
	n	7	3	5	2	1	6	8	4	9	10
		活動の手配	ボランティアの道具・装備等	ボランティア休暇制度	ボランティア保険	事前研修	事前の作業内容等の説明	事後の交流	感染症予防(予防接種)	その他	特になし
0 TOTAL	132	35.6	25.0	20.5	19.7	18.9	18.2	17.4	13.6	5.3	22.7
1 した	36	36.1	41.7	22.2	27.8	25.0	22.2	16.7	22.2	5.6	19.4
2 しなかった	86	36.0	20.9	18.6	17.4	16.3	17.4	18.6	11.6	4.7	20.9
3 わからない	10	30.0	0.0	30.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	50.0

Q27 災害ボランティアセンターへの登録状況【ベース:被災地ボランティア参加者】

## 被災地でボランティア活動をしなかった理由

被災地でボランティア活動をしなかった理由としては、「遠かったから」が 41.3%と最も高く、ついで「職場での休暇が取れないなど、日程的に困難だったから」(28.7%)、「金銭的な余裕がなかったから」(28.5%) となっている。

被災地でボランティア活動をしなかった理由（複数回答）【被災地ボランティア未参加者】

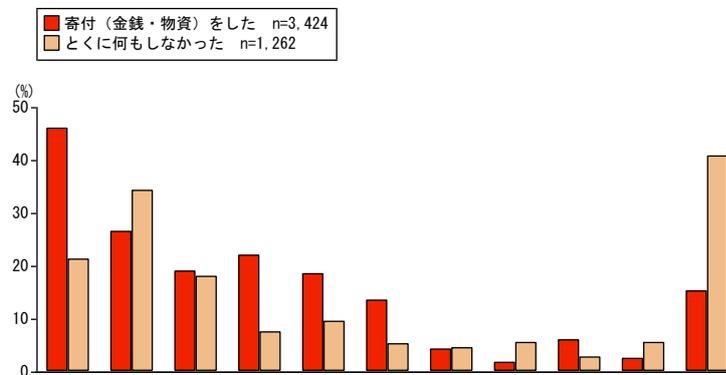


* Q8 東日本大震災に関する行動状況	n	1	3	4	9	5	7	6	2	11	8	14	13	10	12	15	16	17
		遠かったから	職場、日程的に困難だったから	金銭的な余裕がなかったから	自分が行けば、かえって邪魔になるか	精神的な余裕がなかったから	知識・経験・情報がなかったから	療養中や妊娠中など健康上の不安や問題があったから	被災地へ行くための適当な交通手段がなかったから	「べきでない」と聞いたから	被災地でのボランティア活動は危険性が大きいと判断した	自分以外の他者がしてくれると思ったから	関心がなかったから	現地で「人出は足りている」と聞いたから	被災地以外でボランティアをしていたから	その他	被災して自分または家族や親戚が被災したから	特に理由はない
0 TOTAL	5,121	41.3	28.7	28.5	20.2	17.9	16.7	13.2	13.1	7.6	5.1	4.2	2.1	1.9	0.9	3.8	3.7	16.4
1 ボランティア活動に参加した	59	55.9	39.0	28.8	33.9	16.9	16.9	10.2	25.4	5.1	0.0	1.7	0.0	0.0	20.3	6.8	6.8	10.2
2 寄付(金銭・物資)をした	3,474	46.8	32.0	27.0	23.4	18.1	18.9	15.5	14.0	8.5	5.3	4.0	1.1	2.2	1.2	4.0	2.2	10.7
5 とくに何もしなかった	1,262	27.7	18.9	29.4	11.5	15.3	10.3	6.4	9.3	4.4	3.6	4.6	5.5	0.7	0.3	2.8	5.0	33.2

## ボランティア活動をしなかった理由

ボランティア活動をしなかった理由としては、「時間がなかったから」が 39.4%と最も高く、ついで「金銭的な余裕がなかったから」(29.8%)、「精神的な余裕がなかったから」(19.5%)となっている。

ボランティア活動をしなかった理由(複数回答)【ベース:ボランティア未参加者】



* Q 8 東日本大震災に関する行動状況	n	1	2	3	5	6	4	8	7	9	10	11
		時間がなかったから	金銭的な余裕がなかったから	精神的な余裕がなかったから	子どもや要介護者がいてから	から知識・経験・情報がなかった	の不安や問題があったから	療養中や妊娠中など健康上	自分以外の他者がしてくれ	関心がなかったから	その他	被災してはた家族や親戚が
0 TOTAL	5,062	39.4	29.8	19.5	18.4	16.4	11.5	4.6	2.7	5.2	4.2	21.6
2 寄付(金銭・物資)をした	3,424	46.0	26.6	19.2	22.2	18.7	13.7	4.3	1.8	6.0	2.6	15.3
5 とくに何もしなかった	1,262	21.3	34.3	18.1	7.5	9.6	5.3	4.6	5.5	2.9	5.5	40.9

### 3. 物資支援（物）

#### 物資支援（物）をした人の特徴

物資支援をした人は、全体で8.0%で、男性（6.4%）より女性（9.6%）のほうが高い。

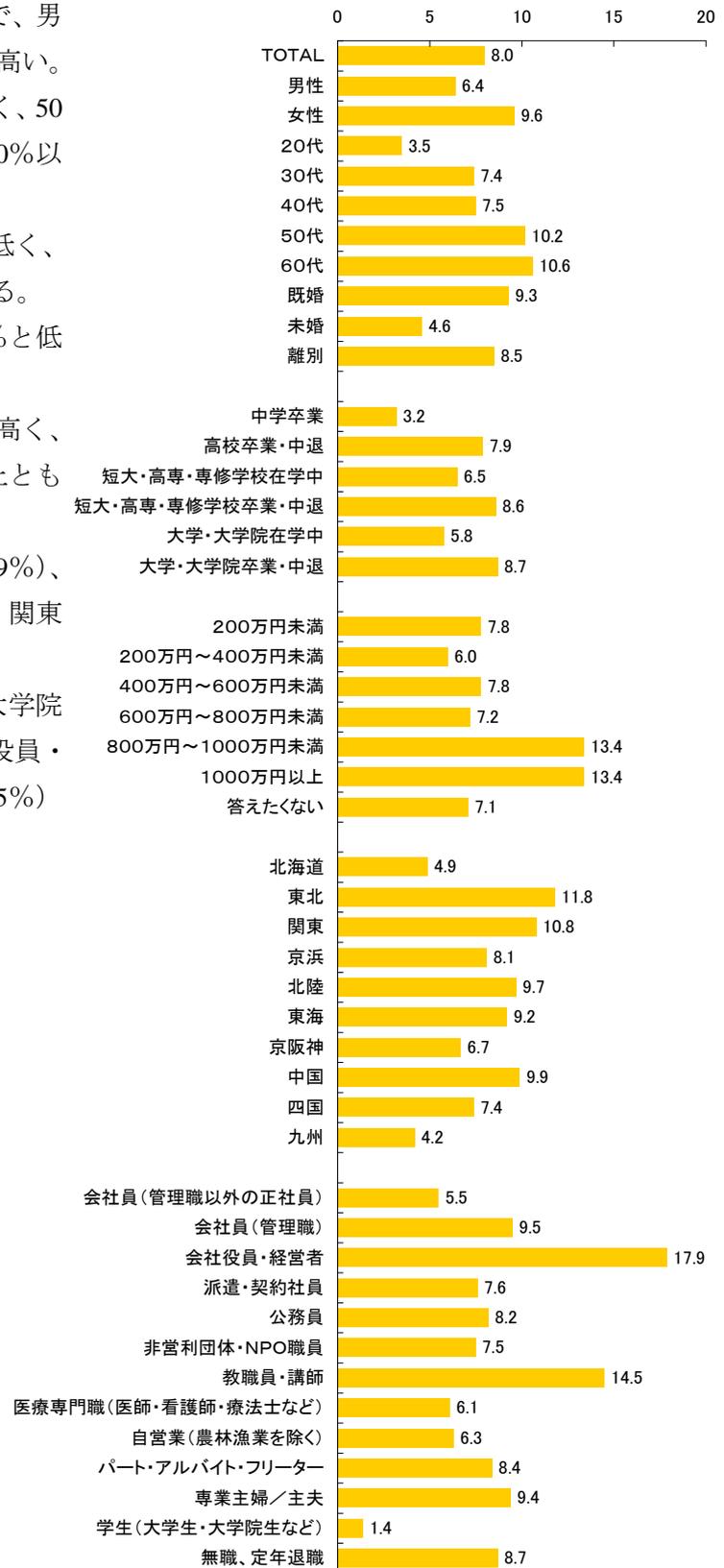
年代別で見ると、20代は3.5%と低く、50代（10.2%）、60代（10.6%）はともに10%以上と高い。

未既婚別で見ると、未婚は4.6%と低く、既婚（9.3%）と比べると半分程度である。最終学歴別で見ると、中学卒業は3.2%と低い。

世帯年収別みると、800万以上では高く、800万～1000万円未満、1000万円以上ともに13.4%である。

居住エリア別で見ると、北海道（4.9%）、九州（4.2%）で低く、東北（11.8%）、関東（10.8%）で10%以上と高い。

職業別で見ると、学生（大学生・大学院生など）では1.4%と低い一方、会社役員・経営者（17.9%）、教職員・講師（14.5%）では高い。

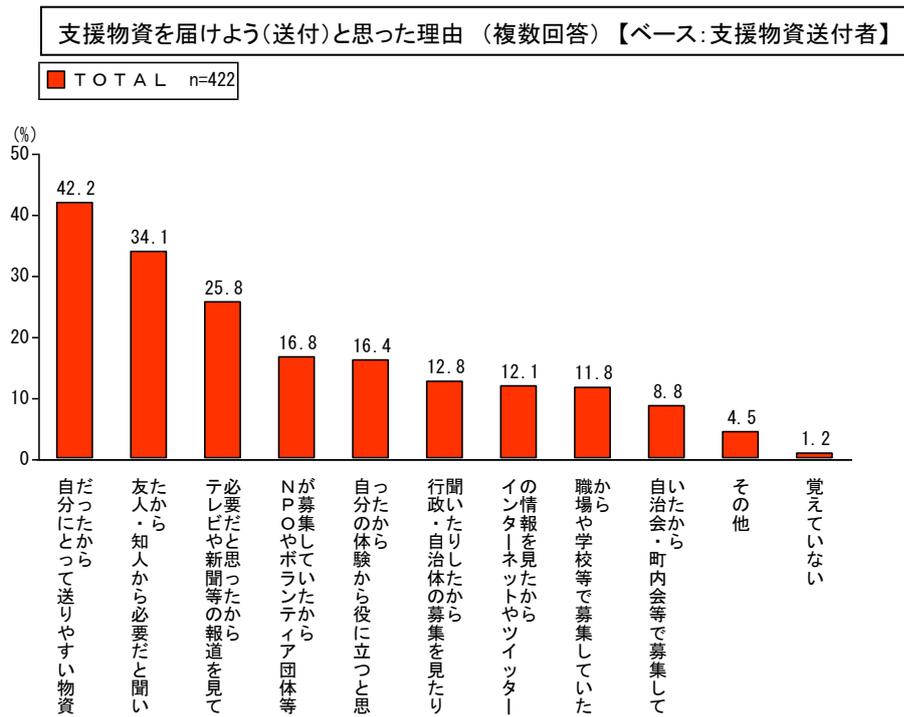


## 支援物資を届けよう（送付）と思った理由

支援物資を届けよう（送付）と思った理由としては、「自分にとって送りやすい物資だったから」が42.2%と最も高く、ついで「友人・知人から必要だと聞いたから」（34.1%）、「テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから」（25.8%）となっている。

性別で見ると、男女で傾向に差はさほど見られない。

年代別で見ると、30代では他の年代より「職場や学校等で募集していたから」（3位）が高く、60代では「行政・自治体の募集を見たり聞いたりしたから」（4位）なども他の年代より高い。



### ※上位5位まで抜粋

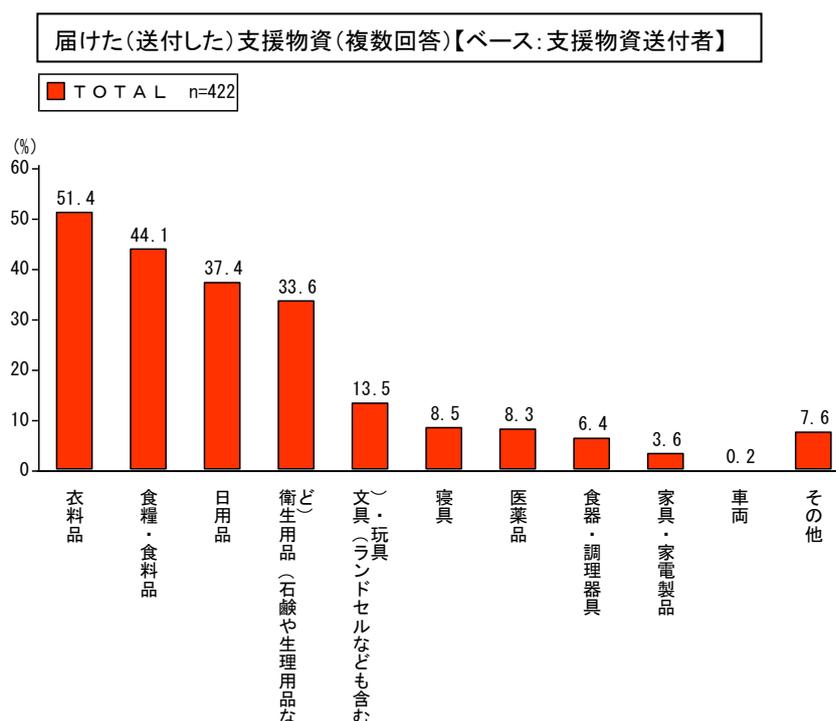
属性	n	1位	2位	3位	4位	5位	同率5位
全体	422	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	NPOやボランティア団体等が募集していたから	自分の体験から役に立つと思ったから	
男性	169	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	自分の体験から役に立つと思ったから	NPOやボランティア団体等が募集していたから	
女性	253	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	NPOやボランティア団体等が募集していたから	自分の体験から役に立つと思ったから	
20代	30	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	自分の体験から役に立つと思ったから	インターネットやツイッターの情報を見たから	(5位) NPOやボランティア団体等が募集していたから
30代	81	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	職場や学校等で募集していたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	インターネットやツイッターの情報を見たから	(5位) 自治会・町内会等で募集していたから
40代	85	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	自分の体験から役に立つと思ったから	(4位) 職場や学校等で募集していたから	
50代	102	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	NPOやボランティア団体等が募集していたから	自分の体験から役に立つと思ったから	
60代	124	自分にとって送りやすい物資だったから	友人・知人から必要だと聞いたから	テレビや新聞等の報道を見て必要だと思ったから	行政・自治体の募集を見たり聞いたりしたから	NPOやボランティア団体等が募集していたから	

## 届けた（送付した）支援物資

届けた（送付した）支援物資としては、「衣料品」が51.4%と最も高く、ついで「食糧・食料品」（44.1%）、「日用品」（37.4%）となっている。

性別で見ると、男性では「食糧・食料品」が最も高く、ついで「衣料品」となっているが、女性では、「衣料品」が最も高く、ついで「衛生用品」となっている。

年代別で見ると、20代では「食糧・食料品」が1位と高く、60代では「日用品」（3位）が他の年代より高い。また、50代では「寝具」（5位）も上位にあげられている。



※上位5位まで抜粋

属性	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	422	衣料品	食糧・食料品	日用品	衛生用品	文具・玩具
男性	169	食糧・食料品	衣料品	日用品	衛生用品	医薬品
女性	253	衣料品	衛生用品	食糧・食料品	日用品	文具・玩具
20代	30	食糧・食料品	衣料品	衛生用品	日用品	文具・玩具
30代	81	衣料品	(1位)食糧・食料品	衛生用品	(3位)日用品	医薬品
40代	85	衣料品	衛生用品	食糧・食料品	日用品	文具・玩具
50代	102	衣料品	食糧・食料品	日用品	衛生用品	寝具
60代	124	衣料品	食糧・食料品	日用品	衛生用品	文具・玩具

※衛生用品(石鹸や生理用品など)、文具(ランドセルなども含む)・玩具

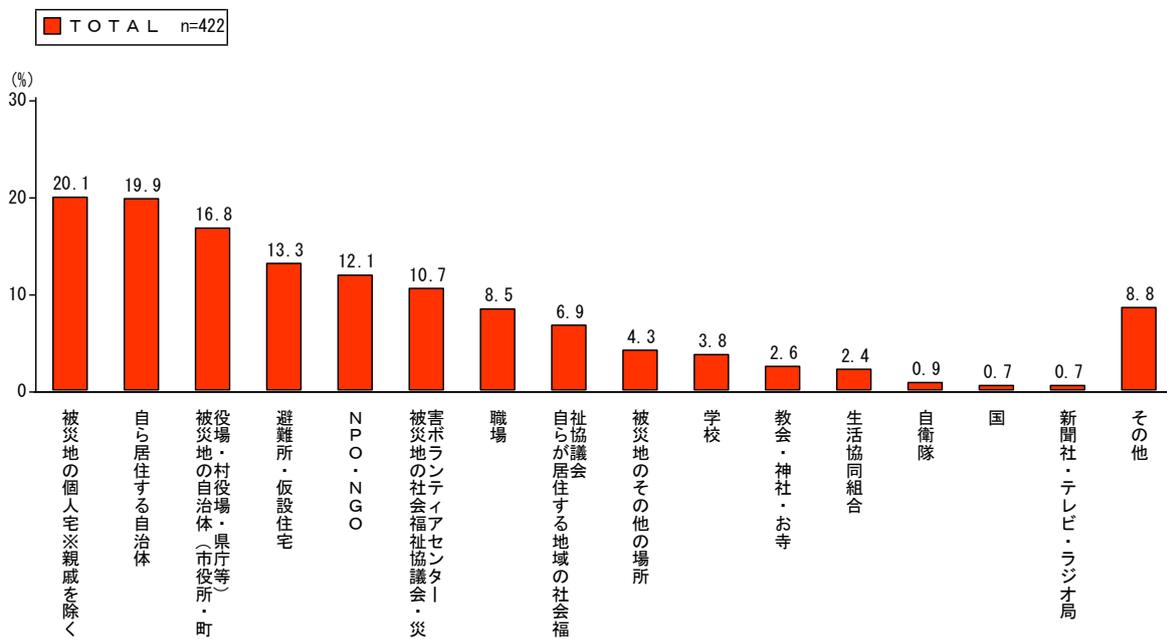
## 支援物資の届け先（送付先）

支援物資の届け先（送付先）としては、「被災地の個人宅」が 20.1%と最も高く、ついで「自ら居住する自治体」（19.9%）、「被災地の自治体（市役所・町役場・村役場・県庁等）」（16.8%）となっている。

性別で見ると、男性では「自ら居住する自治体」が最も高く、ついで「被災地の自治体」となっているが、女性では、「被災地の個人宅」が最も高く、ついで「自ら居住する自治体」の順となっている。

年代別で見ると、60代では「自ら居住する自治体」（1位）、「自らが居住する地域の社会福祉協議会」（3位）が他の年代より高い。

支援物資の届け先(送付先)(複数回答)【ベース: 支援物資送付者】



属性	n	1位	2位	3位	4位	5位	同率5位
全体	422	被災地の個人宅	自ら居住する自治体	被災地の自治体	避難所・仮設住宅	NPO・NGO	
男性	169	自ら居住する自治体	被災地の自治体	被災地の個人宅	NPO・NGO	避難所・仮設住宅	
女性	253	被災地の個人宅	自ら居住する自治体	被災地の自治体	避難所・仮設住宅	被災地の社協・災害ボランティアセンター	(5位)その他
20代	30	被災地の個人宅	被災地の自治体	避難所・仮設住宅	被災地の社協・災害ボランティアセンター	自ら居住する自治体	(5位)学校 (5位)NPO・NGO
30代	81	避難所・仮設住宅	被災地の自治体	(2位)自ら居住する自治体	被災地の個人宅	職場	(5位)NPO・NGO (5位)その他
40代	85	被災地の自治体	(1位)被災地の個人宅	避難所・仮設住宅	職場	自ら居住する自治体	
50代	102	自ら居住する自治体	NPO・NGO	被災地の社協・災害ボランティアセンター	被災地の個人宅	被災地の自治体	
60代	124	自ら居住する自治体	被災地の個人宅	被災地の自治体	(3位)自らが居住する地域の社会福祉協議会	避難所・仮設住宅	

※被災地の個人宅(親戚を除く) ※被災地の自治体(市役所・町役場・村役場・県庁等)

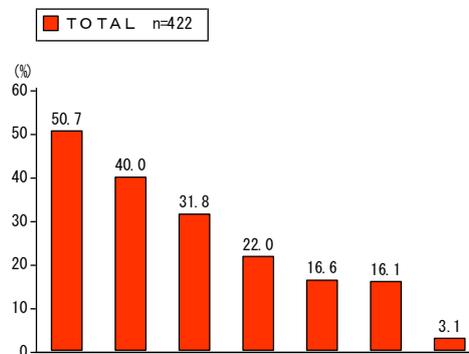
## 支援物資の送付先選択理由

支援物資の送付先選択理由としては、「確実に被災者の方々に届くと思ったから」が 50.7%と最も高く、ついで「信頼できる（送付先）と思ったから」（40.0%）、「支援物資を募集していたから」（31.8%）となっている。

性別で見ると、女性では、男性より「支援物資を募集していたから」、「募集していた支援物資が明確だったから」、「親族・知人等に依頼されたから」が高い。

年代別で見ると、30代では「信頼できる（送付先）と思ったから」（2位）が他の年代より低い。

支援物資の送付先選択理由（複数回答）【ベース：支援物資送付者】



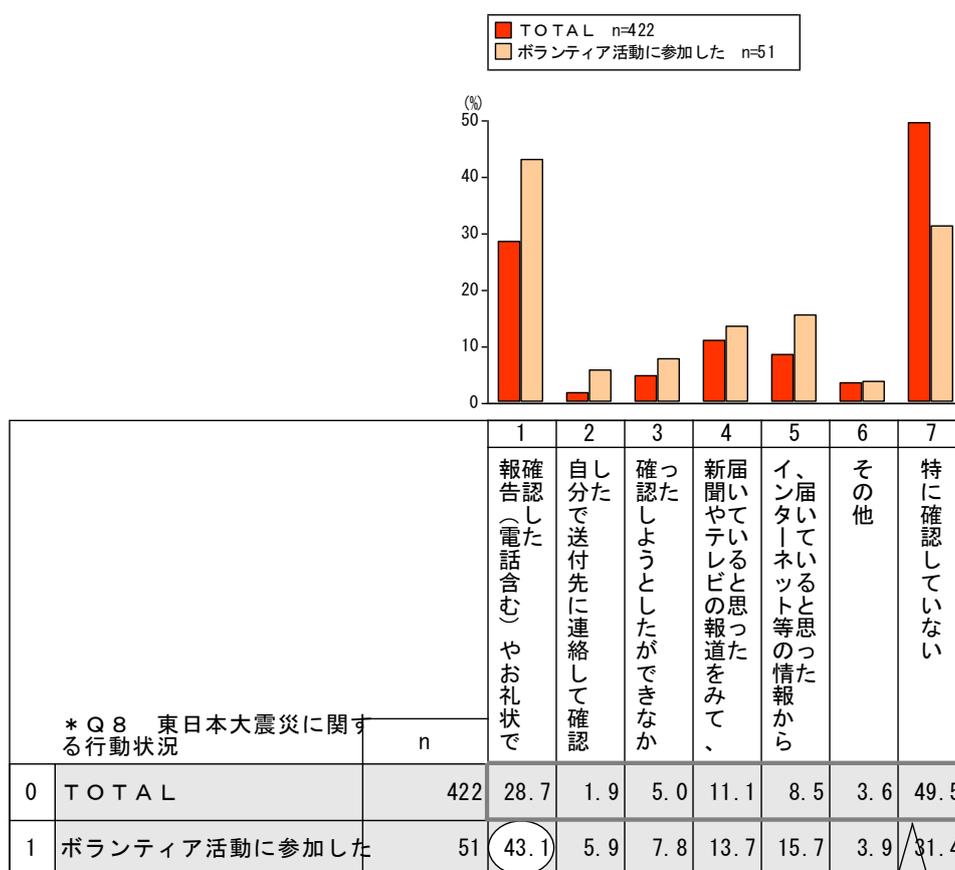
Q 1 性別	n	1	2	3	4	5	6	7
		確実に被災者の方々に届くと思ったから	信頼できる（送付先）と思ったから	支援物資を募集していたから	募集していた支援物資が明確だったから	親族・知人等に依頼されたから	届けたやすかった／送付しやすかった	その他
0 TOTAL	422	50.7	40.0	31.8	22.0	16.6	16.1	3.1
1 男性	169	56.2	40.2	24.9	14.8	11.8	15.4	5.3
2 女性	253	47.0	39.9	36.4	26.9	19.8	16.6	1.6
1 20代	30	50.0	26.7	30.0	23.3	13.3	23.3	0.0
2 30代	81	50.6	27.2	29.6	18.5	14.8	19.8	2.5
3 40代	85	55.3	42.4	29.4	22.4	21.2	9.4	3.5
4 50代	102	49.0	49.0	32.4	25.5	15.7	15.7	1.0
5 60代	124	49.2	42.7	34.7	21.0	16.1	16.9	5.6

## 支援物資の活用についての把握状況

支援物資の活用についての把握状況としては、「特に確認していない」が49.5%と約半数を占めている。ついで、「報告（電話含む）やお礼状で確認した」（28.7%）、「新聞やテレビの報道をみて、届いていると思った」（11.1%）となっている。

性別や年代では傾向に差は見られないが、ボランティア活動に参加した人では、「特に確認していない」（31.4%）より「報告（電話含む）やお礼状で確認した」が43.1%と高くなっている。

支援物資の活用についての把握状況（複数回答）【ベース：支援物資送付者】



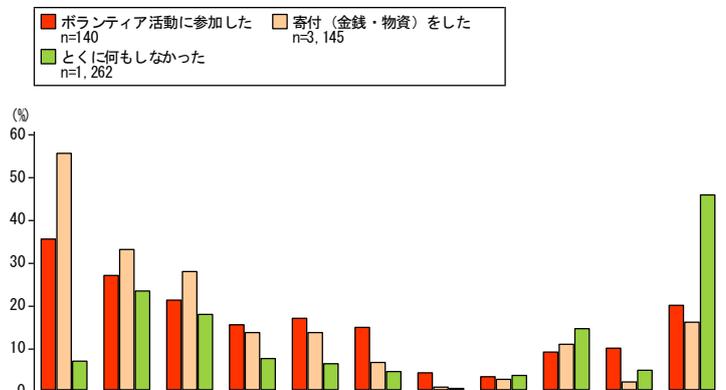
\* Q8 東日本大震災に関する行動状況

## 支援物資の未送付理由

支援物資の未送付理由としては、「現金のほうが役に立つと思ったから」が 39.2%と最も高く、ついで「何を送ったらよいかわからなかったから」(30.8%)、「どこに送ったらよいかわからなかったから」(25.7%)となっている。

ボランティア活動に参加した人の未送付理由では、「運搬手段があまりないと思ったから」(15.0%)が高く、また、金銭での寄付はしたが、支援物資は未送付の人の理由としては、「現金のほうが役に立つと思ったから」(55.5%)と高い。寄付やボランティアなどとくに何もしなかった人の理由では、「特に理由はない」(45.8%)が最も高い。

支援物資の未送付理由(複数回答)【ベース:支援物資未送付者】



		n	4	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11
			現金のほう が役に立つ と思っ	何を 送った からよ いかわ からな	どこに 送った からよ いかわ からな	どから 送らな いと思 ったか らよ いかわ	分配な ど送付 先に手 間や迷 惑を	運搬手 段があ まりな いと思 ったか	被災地 の企業 や商店 等の復 興に	その他	物資を 送ろう と思わ なかつ	自分自 身また は家族 や親戚 が	特に理 由はな い
* Q8	東日本大震災に関する行動状況												
0	TOTAL	4,831	39.2	30.8	25.7	12.4	11.9	6.5	1.1	3.5	11.8	4.1	24.5
1	ボランティア活動に参加した	140	35.7	27.1	21.4	15.7	17.1	15.0	4.3	3.6	9.3	10.0	20.0
2	寄付(金銭・物資)をした	3,145	55.5	33.2	28.0	13.9	13.9	6.7	1.0	3.0	10.9	2.4	6.3
5	とくに何もしなかった	1,262	7.1	23.4	18.1	7.8	6.4	4.8	0.9	3.8	14.7	5.2	45.8

金銭寄付有  
物資寄付無

## 4. 寄付（金）

### 寄付（金銭寄付）をした人の特徴

寄付（金銭寄付）をした人は、全体で66.3%、男性(60.6%)より女性（72.0%）のほうが高い。

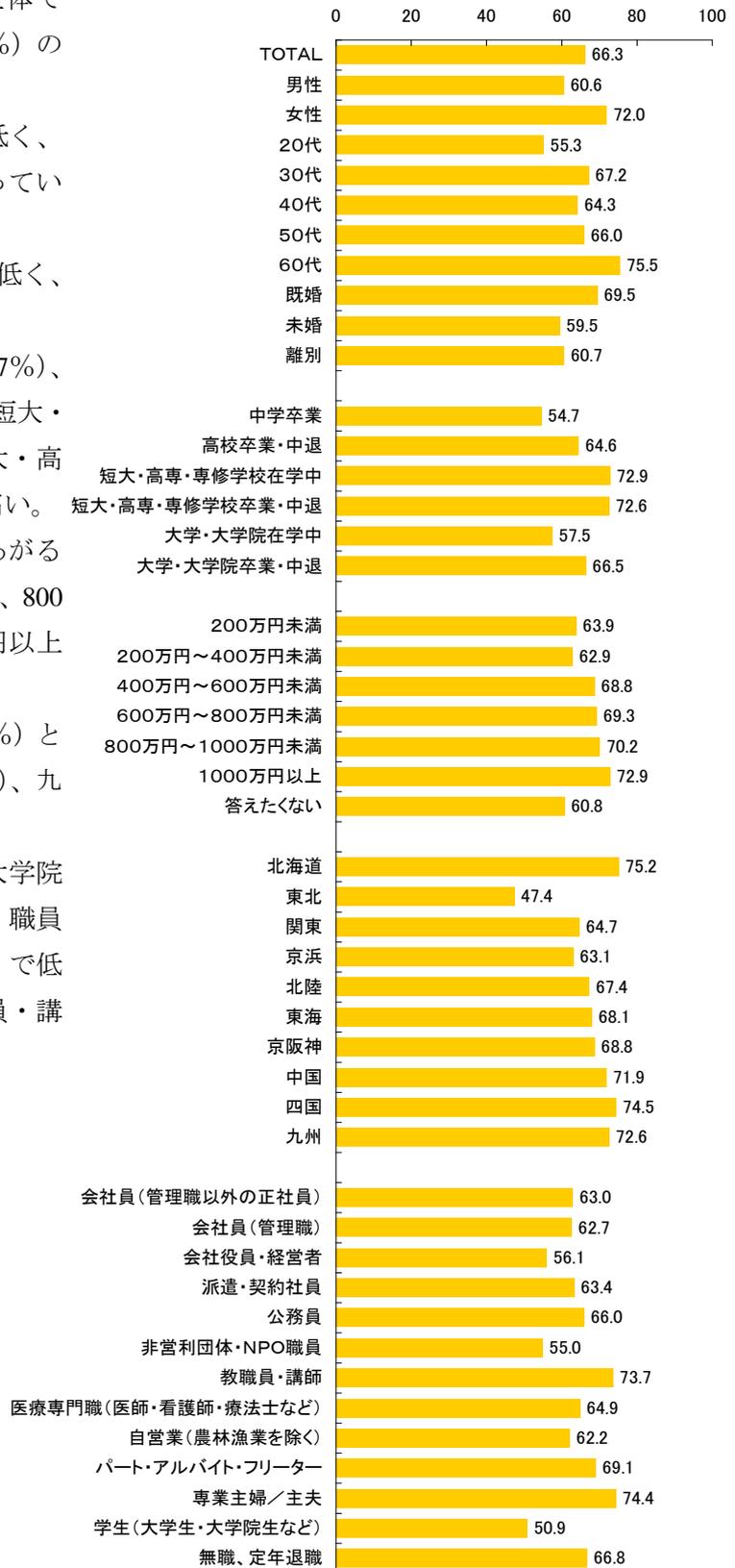
年代別でみると、20代は55.3%と低く、60代（75.5%）は70%以上と高くなっている。

未婚別でみると、未婚(59.5%)で低く、既婚（69.5%）のほうが高い。

最終学歴別でみると、中学卒業（54.7%）、大学・大学院在学中（57.5%）で低く、短大・高専・専修学校在学中（72.9%）、短大・高専・専修学校卒業・中退(72.6%)で高い。世帯年収別みると、やや世帯年収があがるにつれ、寄付者割合は高くなっており、800万～1000万円未満（70.2%）、1000万円以上（72.9%）と70%以上となっている。

居住エリア別でみると、東北（47.4%）と低く、北海道（75.2%）、四国（74.5%）、九州（72.6%）等で70%以上と高い。

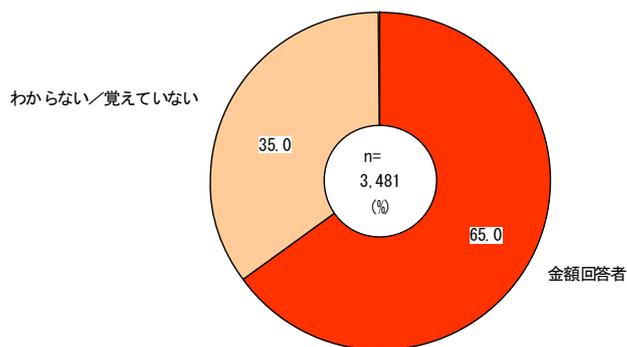
職業別でみると、学生（大学生・大学院生など）（50.9%）、非営利団体・NPO職員（55.0%）、会社役員・経営者（56.1%）で低く、専業主婦／主夫（74.4%）、教職員・講師（73.7%）では70%以上と高い。



## 震災寄付総額

東日本大震災に関する寄付をした人のうち、寄付金額を回答できた(覚えていた)のは、寄付者の65.0%であった。寄付をした記憶はあっても金額が「わからない/覚えていない」は35.0%である。

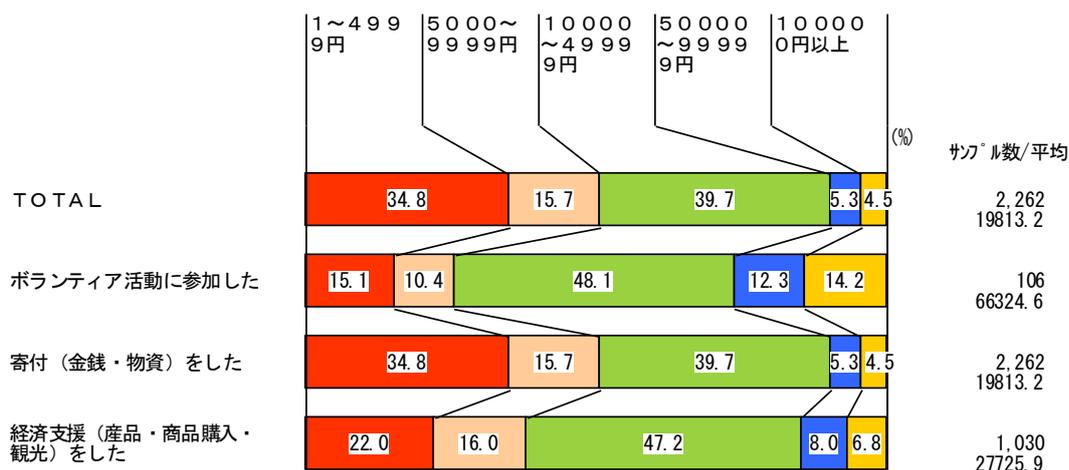
震災寄付金額の認知【ベース:寄付者】



寄付金額を覚えていた人では、震災寄付総額は、「10,000円～49,999円」が39.7%と最も高く、ついで「1～4,999円」(34.8%)、「5,000～9,999円」(16.7%)となっている。

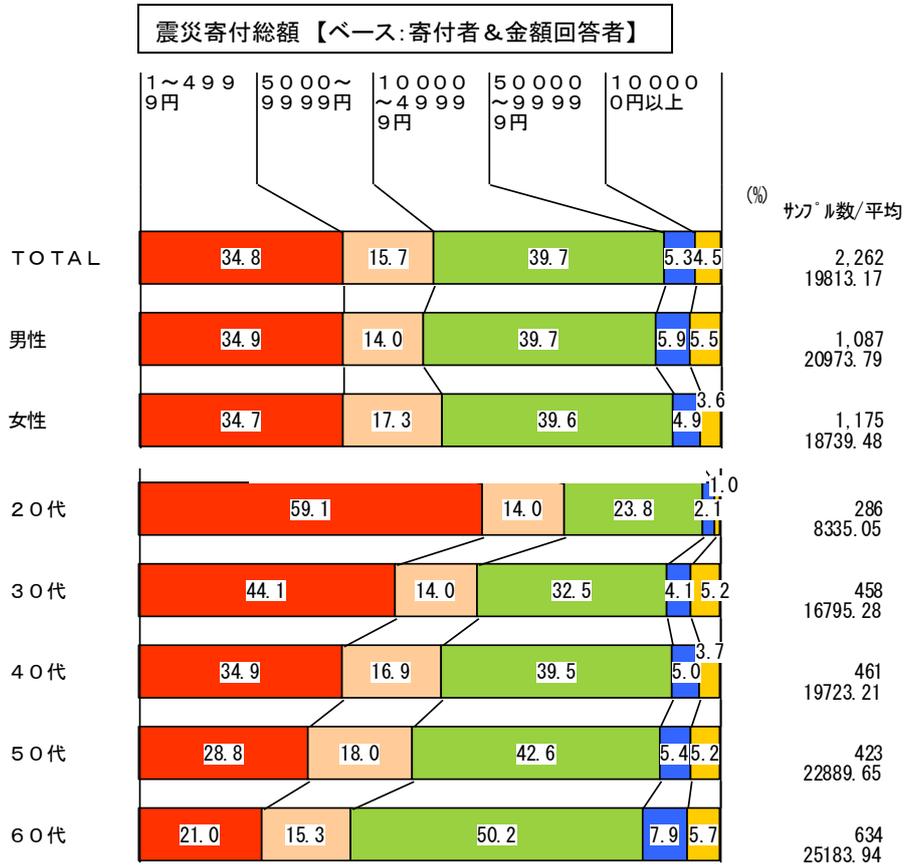
寄付金額の平均値は19,813円で、中央値では7,250円である。

震災寄付総額【ベース:寄付者&金額回答者】



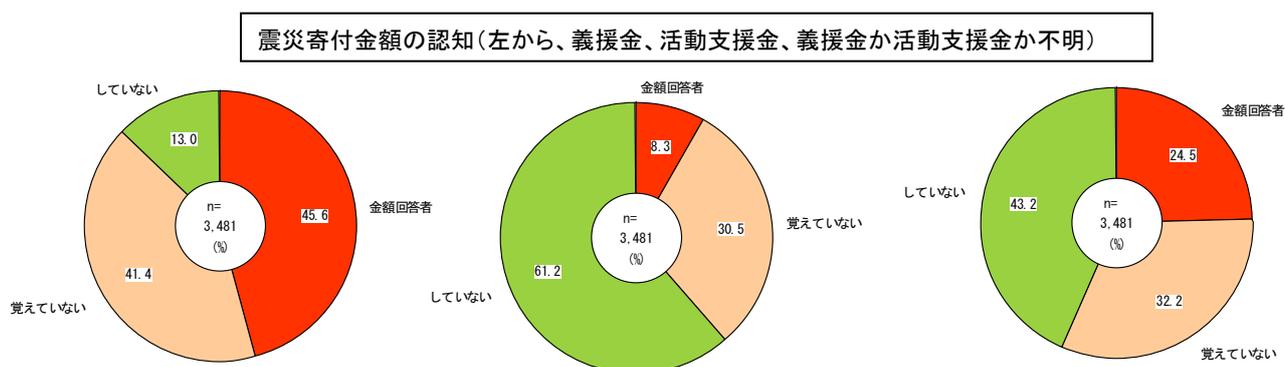
性別で見ると、50,000円以上の寄付者は男性（11.4%）のほうが女性（8.5%）より多く、寄付金額の中央値は、男性で10,000円、女性で6,000円となっている。

年代別で見ると、年代があがるにつれ、寄付金額も高くなる傾向がみられ、60代では50,000円以上の寄付者は13.6%となっている。寄付金額の中央値は、20代で2,000円、30代で5,000円、40代で6,000円、50代と60代はともに10,000円となっている。



## 寄付の種類別、震災寄付金額

東日本大震災に関する寄付をした人に、寄付の種類別（義援金／活動支援金／義援金か支援金かわからない寄付）に改めて寄付金額を聞いたところ、覚えていて金額を回答できたのは、義援金で 45.6%、活動支援金で 8.3%、義援金か活動支援金か不明で 24.5%であった。

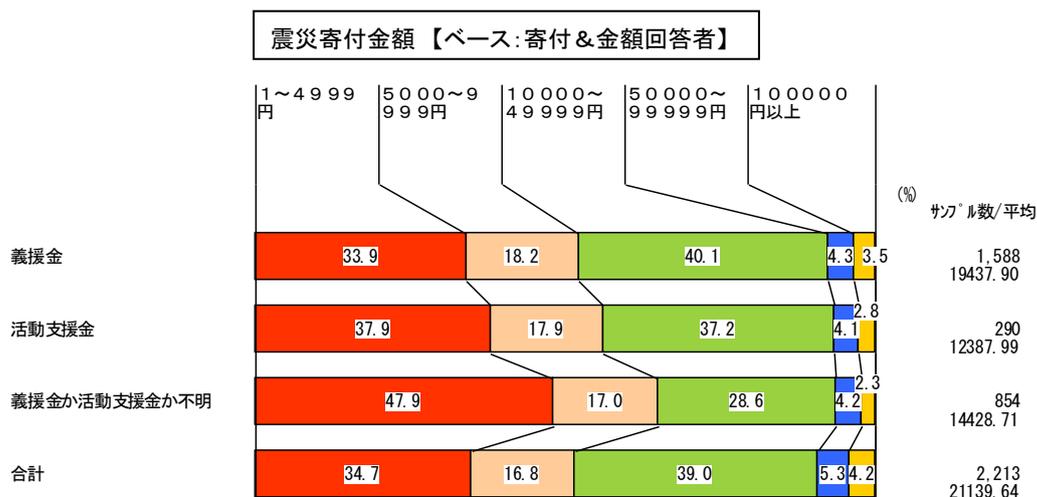


寄付金額を覚えていた人で、義援金では、「10,000 円～49,999 円」が 40.1%と最も高く、活動支援金と義援金か活動支援金か不明では「1～4999 円」(37.9%、47.9%)、「5,000～9,999 円」(16.7%) が最も高い。

義援金の平均値は、19,438 円で、中央値は 6,000 円である。

活動支援金の平均値は、12,388 円で、中央値では 5,000 円である。

義援金か活動支援金か不明の平均値は、14,429 円で、中央値では 5,000 円である。



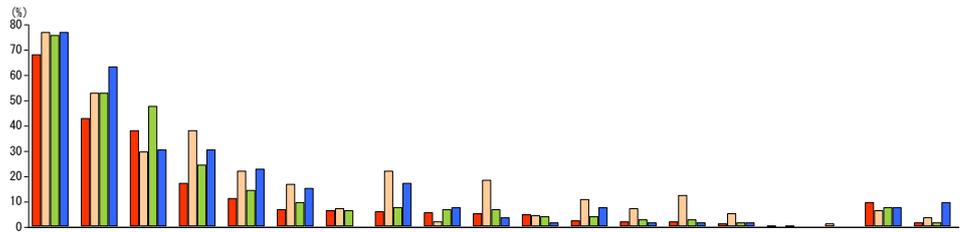
## 東日本大震災に関して寄付をした理由

ボランティア活動に参加できた理由としては、「被災者や被災地のために役に立ちたいから」が68.1%と最も高く、ついで「すぐに支援をする必要があると思ったから」(43.1%)、「ボランティア活動ができないため、金銭でボランティア」(38.2%)となっている。

ボランティア活動に参加した人の金銭寄付の理由では、「被災地で救援活動をしている団体を応援したいから」(38.1%)、「とても熱心に活動している団体だから」(22.4%)が高く、また、経済支援をした人の理由では、「ボランティア活動ができないため、金銭でボランティア」(48.0%)が高くなっている。その他の支援活動をした人では、「すぐに支援をする必要があると思ったから」(63.5%)が高い。

東日本大震災に関して寄付をした理由(複数回答)【ベース:寄付者】

■ TOTAL n=3,481 
 ■ ボランティア活動に参加した n=134 
 ■ 経済支援(商品・商品購入・観光)をした n=1,569 
 ■ その他の支援活動をした n=52



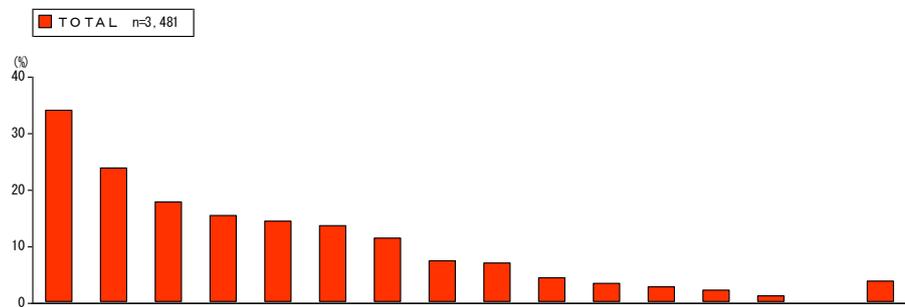
* Q8 東日本大震災に関する行動状況	n	3	9	10	4	7	6	14	1	13	15	12	5	8	2	11	17	16	18	19
		被災者や被災地のために役に立ちたいから	すぐに支援をする必要があると思ったから	ボランティア活動ができないため、金銭でボランティア活動ができない	被災地で救援活動をしている団体を応援したいから	倫理的かつ正しいことをした	自分の幸福を感謝したいから	会社や学校が奨励しているから	とても熱心に活動している団体だから	お付き合いとして	家族や友人や職場の同僚が関わっている団体や活動	ほとんど義務的なものだから	満足や達成感が得られるから	貯蓄や資産を有効に使いたいから	寄付をした団体にお世話になったことがあるから	効果や期待するから	自分の子どもたちへの教育的な目的として	節税対策として	仕事や学校の評価上有利だから	なんとなく
0 TOTAL	3,481	68.1	43.1	38.2	17.6	11.5	6.9	6.5	6.0	5.9	5.4	5.1	2.8	2.3	2.2	1.4	0.5	0.3	9.9	1.7
1 ボランティア活動に参加した	134	76.9	53.0	29.9	38.1	22.4	17.2	7.5	22.4	2.2	18.7	4.5	11.2	7.5	12.7	5.2	0.0	1.5	6.7	3.7
3 経済支援(商品・商品購入・観光)をした	1,569	76.0	53.2	48.0	24.5	14.5	9.8	6.5	7.9	6.9	7.0	4.3	4.2	2.9	3.0	1.8	0.4	0.3	7.8	1.7
4 その他の支援活動をした	52	76.9	63.5	30.8	30.8	23.1	15.4	0.0	17.3	7.7	3.8	1.9	7.7	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	7.7	9.6

## 東日本大震災に関して寄付をしたきっかけ

東日本大震災に関して寄付をしたきっかけとしては、「関心があったから」が 34.2%と最も高く、ついで「インターネットで知ったから」(23.9%)、「テレビや新聞等で寄付先団体や活動の紹介があったから」(17.9%)となっている。

性別でみると、男性のほうが女性より「職場や学校等で紹介されたから」が高く、また、男性より女性のほうが、「街頭での呼びかけがあったから」、「自治会や町内会等が集めに来たから」、「寄付つき商品や支援団体の物品の購入機会があったから」が高くなっている。

東日本大震災に関して寄付をしたきっかけ(複数回答)【ベース:寄付者】

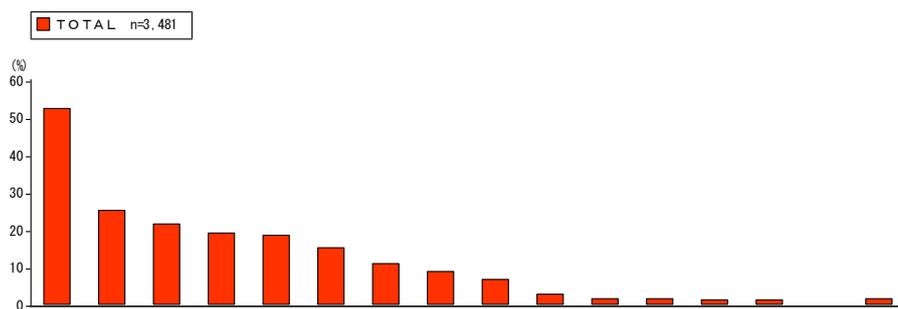


Q1 性別	n	12	6	9	4	10	3	15	2	1	8	7	11	14	5	13	16
		関心があったから	インターネットで知ったから	テレビや新聞等で寄付先団体や活動の紹介があったから	街頭での呼びかけがあったから	職場や学校等で紹介されたから	自治会や町内会等が集めに来た(回覧を含む)から	寄付つき商品や支援団体の物品の購入機会があったから	家族や知人や団体から頼まれたから	家族や知人や団体を通じて紹介されたから	活動拠点等が近くに寄付先団体の自宅等の近くに寄付先団体のイベントに参加したから	その団体でボランティアをしたから	金銭的に余裕があったから	ダイレクトメールをもらったから	相続や香典などがあったから	その他	
0 TOTAL	3,481	34.2	23.9	17.9	15.5	14.5	13.7	11.5	7.5	7.1	4.6	3.4	2.8	2.4	1.4	0.1	3.8
1 男性	1,589	33.7	24.4	16.5	11.7	16.8	11.1	7.4	7.4	6.7	4.7	2.8	2.6	3.8	1.4	0.1	4.0
2 女性	1,892	34.6	23.6	19.0	18.8	12.6	15.9	14.9	7.6	7.4	4.4	4.0	3.0	1.1	1.3	0.2	3.7

## 東日本大震災に関して寄付をした手段

東日本大震災に関して寄付をした手段としては、「募金箱（店頭、職場など含む）」が52.8%と最も高く、ついで「ポイント還元」（25.7%）、「手渡し（町内会・自治会などの集金を含む）」（22.1%）となっている。

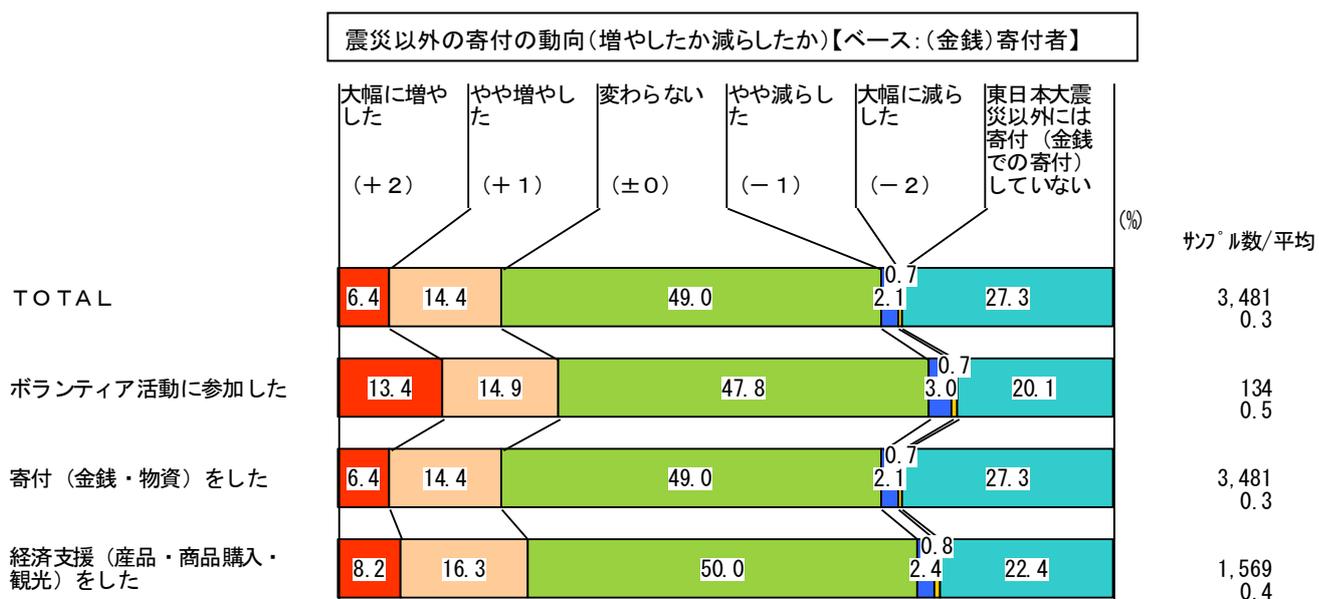
東日本大震災に関して寄付をした手段(複数回答)【ベース:寄付者】



Q1 性別	n	手段															
		1 募金箱 (店頭、職場など含む)	11 ポイント還元	3 手渡し (町内会・自治会などの集金を含む)	12 クリック募金	2 街頭募金	13 寄付つき商品の購入	4 郵便振替	5 銀行振替	6 クレジットカード決済	10 生協などでの天引き	8 電子マネー (Eca・ICOAなど Eddy・Su)	15 ダイアル募金	14 チャリティオークションへの参加	9 給料天引き	7 コンビニ決済	16 その他
0 TOTAL	3,481	52.8	25.7	22.1	19.6	18.9	15.7	11.2	9.4	7.3	3.3	2.0	1.9	1.6	1.5	0.6	1.9
1 男性	1,589	51.2	21.4	21.3	16.4	16.9	10.9	10.1	10.6	7.7	0.4	2.8	1.3	1.4	2.3	0.7	1.8
2 女性	1,892	54.2	29.4	22.8	22.4	20.6	19.8	12.2	8.4	6.9	5.8	1.2	2.4	1.8	0.8	0.5	2.0
1 20代	468	63.5	20.9	16.8	17.5	19.2	13.9	5.8	7.1	6.8	0.2	1.9	0.6	1.3	1.5	0.9	1.3
2 30代	738	56.1	28.7	13.8	23.4	16.7	16.9	6.6	9.6	8.1	2.0	1.4	1.4	1.9	0.9	0.7	1.4
3 40代	729	52.7	26.2	22.1	20.4	16.9	14.8	9.3	8.1	8.0	2.7	2.1	0.7	2.1	2.1	0.1	1.8
4 50代	660	50.2	27.6	26.8	21.1	18.0	17.6	12.1	10.2	7.4	4.8	2.6	2.1	1.5	2.4	0.9	2.0
5 60代	886	46.6	24.0	33.5	15.9	22.8	15.1	18.8	10.9	6.1	5.3	1.9	3.8	1.4	0.9	0.5	2.7

## 震災以外の寄付の動向（増やしたか減らしたか）

寄付者に、震災以外への寄付の動向を聞いたところ、「変わらない」が49.0%と最も高く、ついで「東日本大震災以外には寄付していない」（27.3%）となっており、増加（大幅に増やした+やや増やした）は20.8%、減少（大幅に減らした+やや減らした）は2.8%となっている。

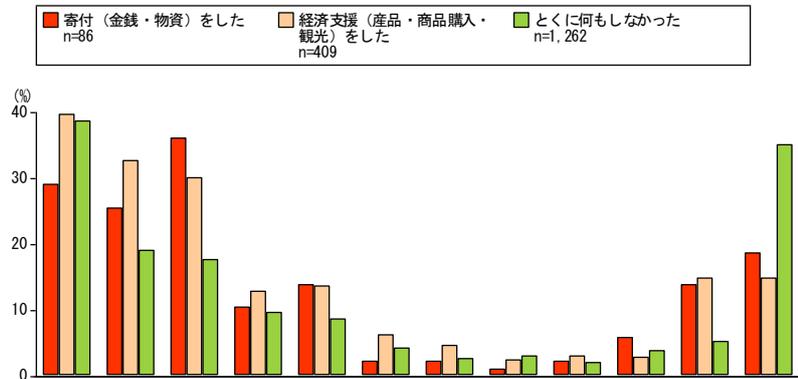


## 寄付をしなかった理由

東日本大震災に関して寄付をしなかった理由としては、「金銭的に余裕がなかったから」が 38.3%と最も高く、ついで「特に理由はない」(29.8%)、「寄付が寄付先に確実に届くか不安だったから」(22.3%)となっている。

ボランティア活動に参加した人で寄付をしなかった理由では、「すでに多額の寄付がされていると聞いたから」(10.5%)や「自分自身または家族や親戚が被災していたから」(22.8%)が高く、また、支援物資はしたが寄付はしなかった人の理由としては、「寄付が何に使われるか不安だったから」(36.0%)と高い。経済支援はしたが、寄付はしなかった人の理由では、「寄付が寄付先に確実に届くか不安だったから」(32.8%)や「寄付をするきっかけがなかったから」(13.7%)等が高くなっている。とくに何もしなかった人の理由では、「特に理由はない」(35.0%)と高い。

寄付をしなかった理由(複数回答)【ベース:未寄付者】



* Q8 東日本大震災に関する行動状況	n	1	4	3	5	6	9	8	2	7	10	11	12
		金銭的に余裕がなかったから	寄付が寄付先に確実に届くか不安だったから	寄付が何に使われるか不安だったから	寄付はなんとなくさくさくさ	寄付をするきっかけがなかったから	震災後の復旧・復興の支援は	行政がすべきだから	すでに多額の寄付がされていると聞いたから	自分以外の誰かがすると思っ	寄付の方法がわからなかった	その他	被災して自分または家族や親戚が
0 TOTAL	1,772	38.3	22.3	20.9	10.1	9.7	4.7	3.3	3.0	2.3	4.2	7.6	29.8
1 ボランティア活動に参加した	57	29.8	19.3	24.6	7.0	7.0	3.5	10.5	5.3	1.8	3.5	22.8	19.3
2 寄付(金銭・物資)をした	86	29.1	25.6	36.0	10.5	14.0	2.3	2.3	1.2	2.3	5.8	14.0	18.6
3 経済支援(商品・商品購入・観光)をした	409	39.6	32.8	30.1	13.0	13.7	6.4	4.6	2.4	3.2	2.9	14.9	14.9
5 とくに何もしなかった	1,262	38.7	19.0	17.7	9.7	8.6	4.3	2.8	3.1	2.1	3.8	5.2	35.0

## 5. その他

### とくに何もしなかった人の特徴

とくに何もしなかった人は、全体で24.0%、男性(30.0%)のほうが女性(18.1%)より高い。

年代別でみると、60代は16.6%と低く、20代では34.8%と高い。

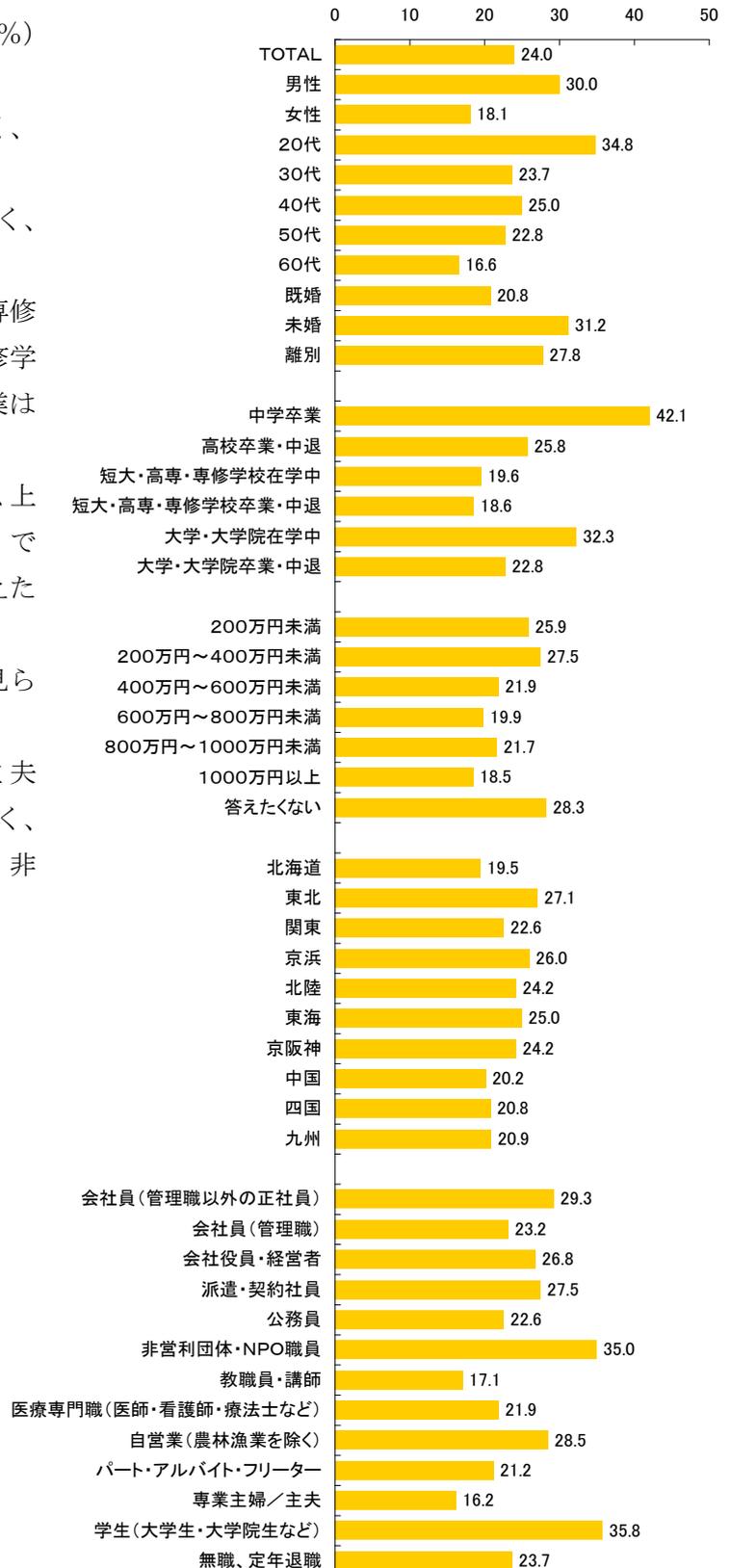
未婚別でみると、既婚は20.8%と低く、未婚(31.2%)、離婚(27.8%)は高い。

最終学歴別でみると、短大・高専・専修学校在学中(19.6%)、短大・高専・専修学校卒業・中退(18.6%)で低く、中学卒業は42.1%と高い。

世帯年収別みると、1000万円以上(18.5%)、600~800万円未満(19.9%)で低く、200~400万円未満(27.5%)、答えたくない(28.3%)で高くなっている。

居住エリア別でみると、差はあまり見られない。

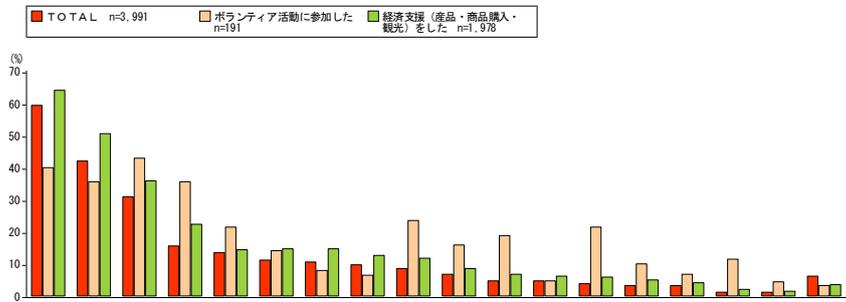
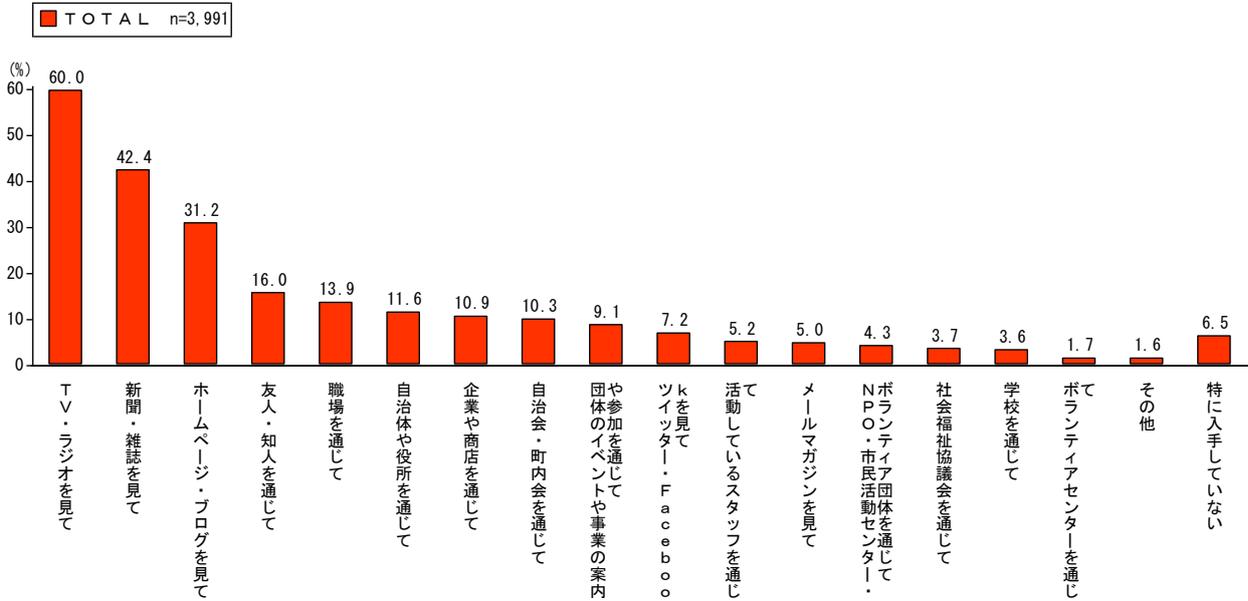
職業別でみると、専業主婦／主夫(16.2%)、教職員・講師(17.1%)で低く、学生(大学生・大学院生など)(35.8%)、非営利団体・NPO職員(35.0%)で高い。



# 東日本大震災に関する支援情報の入手経路

東日本大震災に関する支援情報の入手経路としては、「TV・ラジオを見て」が60.0%と最も高く、ついで「新聞・雑誌を見て」(42.4%)、「ホームページ・ブログを見て」(31.2%)となっている。

東日本大震災に関する支援情報の入手経路(複数回答)【ベース:支援者】

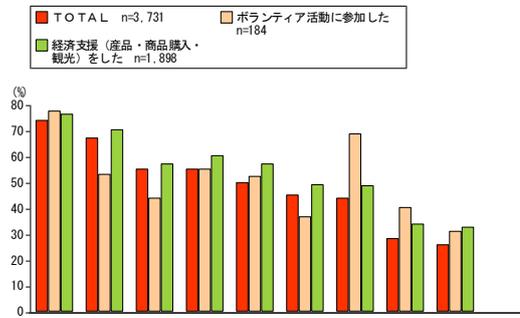
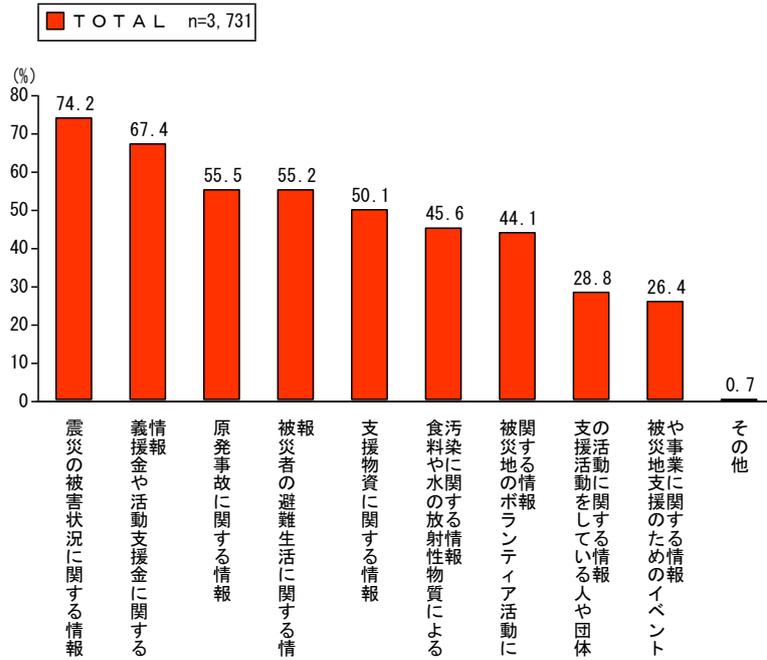


* Q8 東日本大震災に関する行動状況	n	5	4	1	8	9	11	15	16	7	2	6	3	14	12	10	13	17	18
		TV・ラジオを見て	新聞・雑誌を見て	ホームページ・ブログを見て	友人・知人を通じて	職場を通じて	自治体や役所を通じて	企業や商店を通じて	自治会・町内会を通じて	や参加を通じて団体のイベントや事業の案内	ツイッター・Facebookを見て	活動しているスタッフを通じて	メールマガジンを見て	NPO・市民活動センター・ボランティア団体を通じて	社会福祉協議会を通じて	学校を通じて	ボランティアセンターを通じて	その他	特に入手していない
0 TOTAL	3,991	60.0	42.4	31.2	16.0	13.9	11.6	10.9	10.3	9.1	7.2	5.2	5.0	4.3	3.7	3.6	1.7	1.6	6.5
1 ボランティア活動に参加した	191	40.3	36.1	43.5	36.1	22.0	14.7	8.4	6.8	24.1	16.2	19.4	5.2	22.0	10.5	7.3	12.0	4.7	3.7
2 寄付(金銭・物資)をした	3,567	60.6	42.5	31.4	16.5	14.2	12.1	10.8	10.7	9.6	7.4	5.6	5.3	4.6	3.8	3.6	1.7	1.6	6.2
3 経済支援(産品・商品購入・観光)をした	1,978	64.5	51.1	36.2	22.8	14.8	15.2	15.3	12.9	12.3	8.9	7.2	6.7	6.4	5.5	4.6	2.5	1.8	4.0
4 その他の支援活動をした	88	56.8	43.2	42.0	31.8	19.3	21.6	9.1	10.2	14.8	9.1	14.8	6.8	11.4	11.4	5.7	12.5	5.7	4.5

## 入手した情報の内容

入手した情報の内容としては、「震災の被害状況に関する情報」が 74.2%と最も高く、ついで「義援金や活動支援金に関する情報」(67.4%)、「原発事故に関する情報」、「被災者の避難生活に関する情報」(ともに 55.2%) となっている。

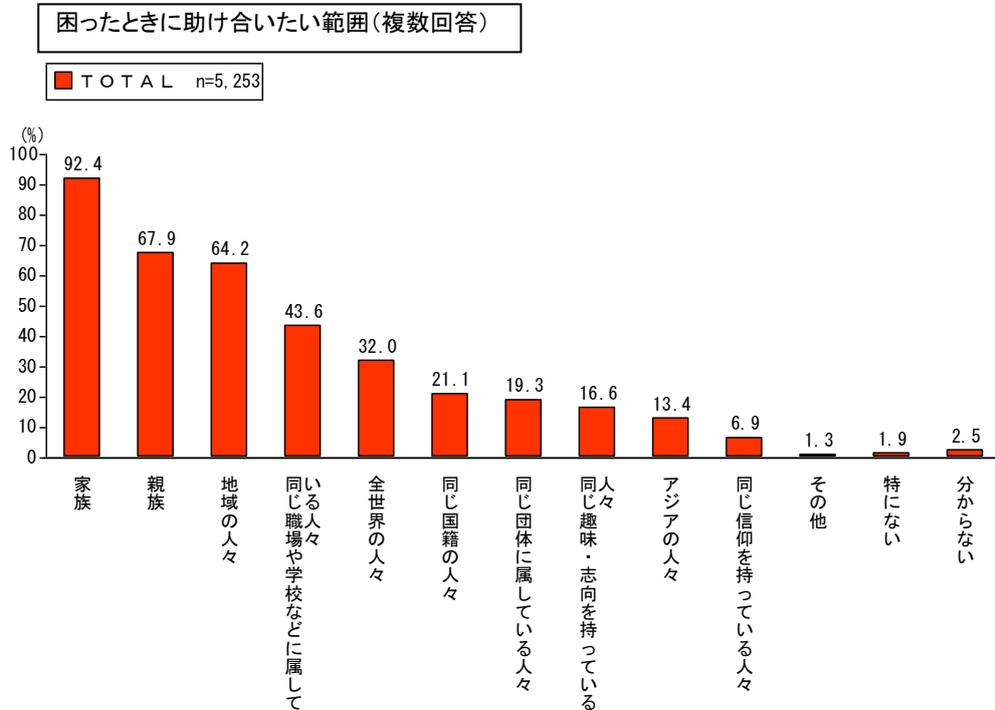
入手した情報の内容(複数回答)【ベース: 支援情報入手者】



* Q8 東日本大震災に関する行動状況	n	1	6	2	4	7	3	5	8	9	10
		震災の被害状況に関する情報	義援金や活動支援金に関する情報	原発事故に関する情報	被災者の避難生活に関する情報	支援物資に関する情報	食料や水の放射性物質による汚染に関する情報	被災地のボランティア活動に関する情報	支援活動をしている人や団体の活動に関する情報	被災地支援のためのイベントや事業に関する情報	その他
0 TOTAL	3,731	74.2	67.4	55.5	55.2	50.1	45.6	44.1	28.8	26.4	0.7
1 ボランティア活動に参加した	184	77.7	53.3	44.0	55.4	52.7	37.0	69.0	40.8	31.5	0.0
2 寄付(金銭・物資)をした	3,345	74.6	70.0	55.5	55.5	51.2	45.4	44.3	29.3	25.8	0.6
3 経済支援(産品・商品購入・観光)をした	1,898	76.7	70.7	57.3	60.6	57.3	49.5	48.9	34.3	33.2	0.4
4 その他の支援活動をした	84	78.6	56.0	46.4	63.1	51.2	40.5	48.8	36.9	34.5	3.6

## 困ったときに助け合いたい範囲

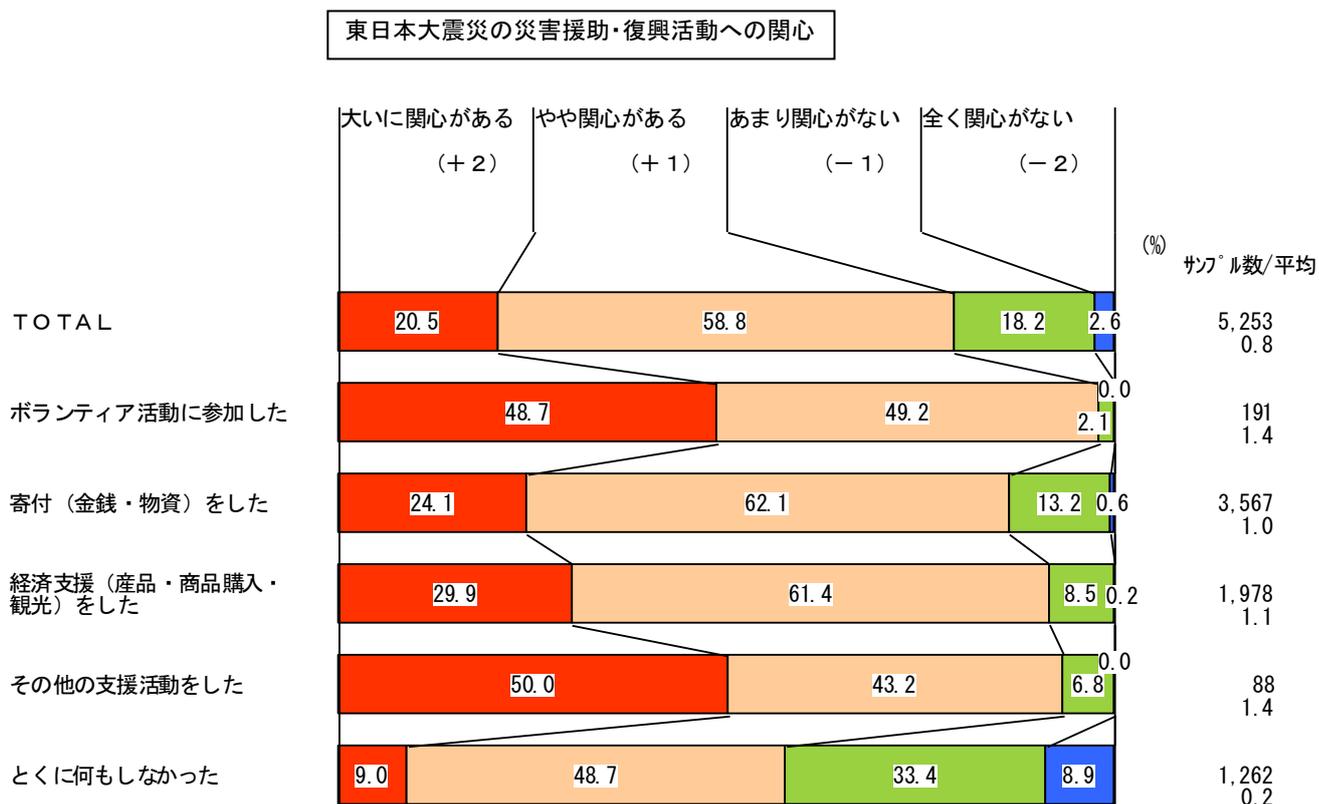
困ったときに助け合いたい範囲としては、「家族」が92.4%と最も高く、ついで「親族」(67.9%)、「地域の人々」(64.2%)となっている。



	n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
		家族	親族	地域の人々	同じ職場や学校などに属している人々	同じ団体に属している人々	同じ趣味・志向を持っている人々	同じ信仰を持っている人々	同じ国籍の人々	アジアの人々	全世界の人々	その他	特にない	分からない
* Q8 東日本大震災に関する行動状況														
0 TOTAL	5,253	92.4	67.9	64.2	43.6	19.3	16.6	6.9	21.1	13.4	32.0	1.3	1.9	2.5
1 ボランティア活動に参加した	191	91.6	71.7	74.3	53.9	35.6	28.8	11.5	27.7	23.0	47.6	2.1	1.6	2.6
2 寄付(金銭・物資)をした	3,567	94.8	72.1	70.6	46.3	21.6	18.3	7.5	23.3	15.4	37.1	1.2	1.0	1.4
3 経済支援(産品・商品購入・観光)をした	1,978	95.8	75.5	74.7	50.1	24.8	21.6	8.7	26.7	18.3	42.7	1.7	0.7	1.0
4 その他の支援活動をした	88	89.8	65.9	67.0	36.4	22.7	17.0	3.4	27.3	15.9	37.5	5.7	2.3	2.3
5 とくに何もしなかった	1,262	85.3	55.9	46.3	35.4	13.4	11.3	5.0	4.0	7.7	18.3	1.3	4.8	5.9

## 東日本大震災の災害援助・復興活動への関心

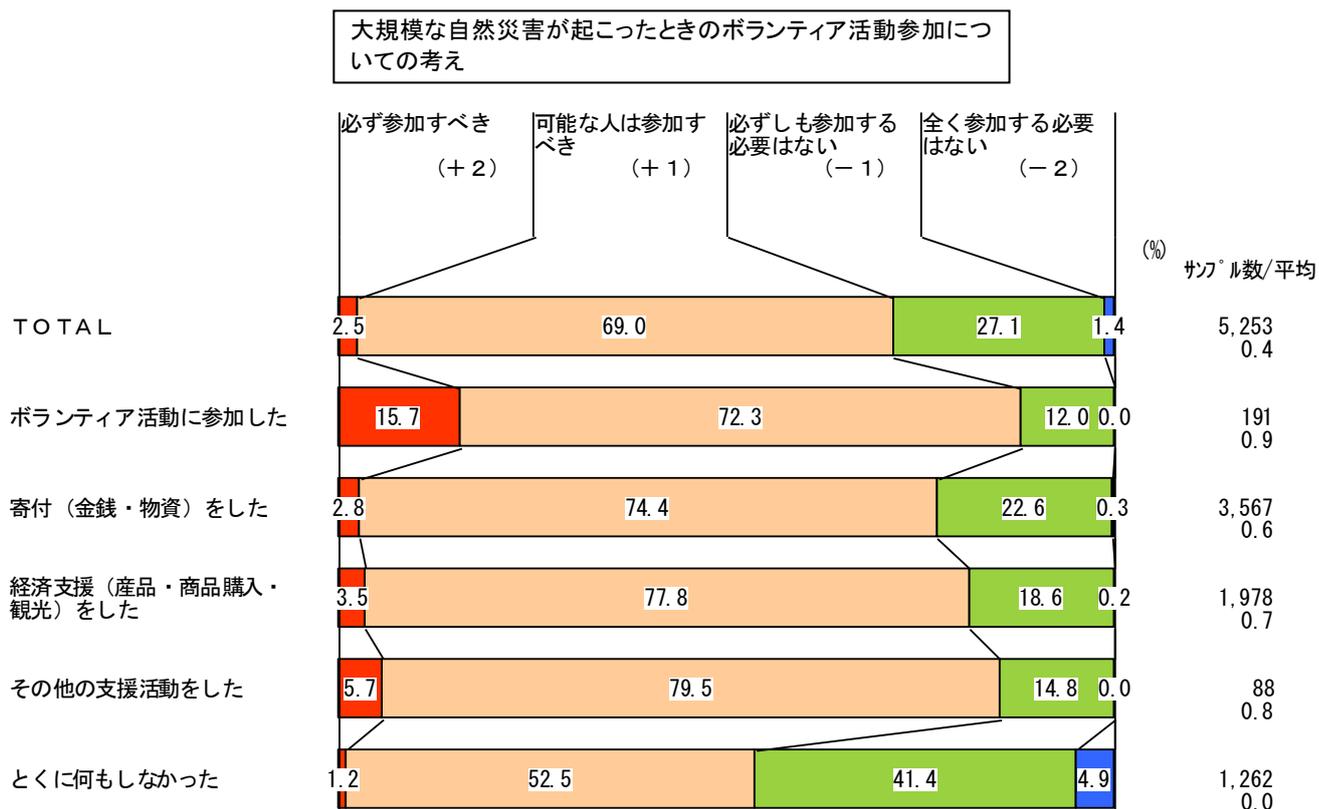
東日本大震災の災害援助・復興活動への関心について、関心がある（大いに関心がある＋やや関心があるの合計）は79.3%である。



## 大規模な自然災害が起こった時のボランティア活動参加についての考え

大規模な自然災害が起こった時のボランティア活動について、参加すべき（必ず参加すべき＋可能な人は参加すべきの合計）は71.5%である。

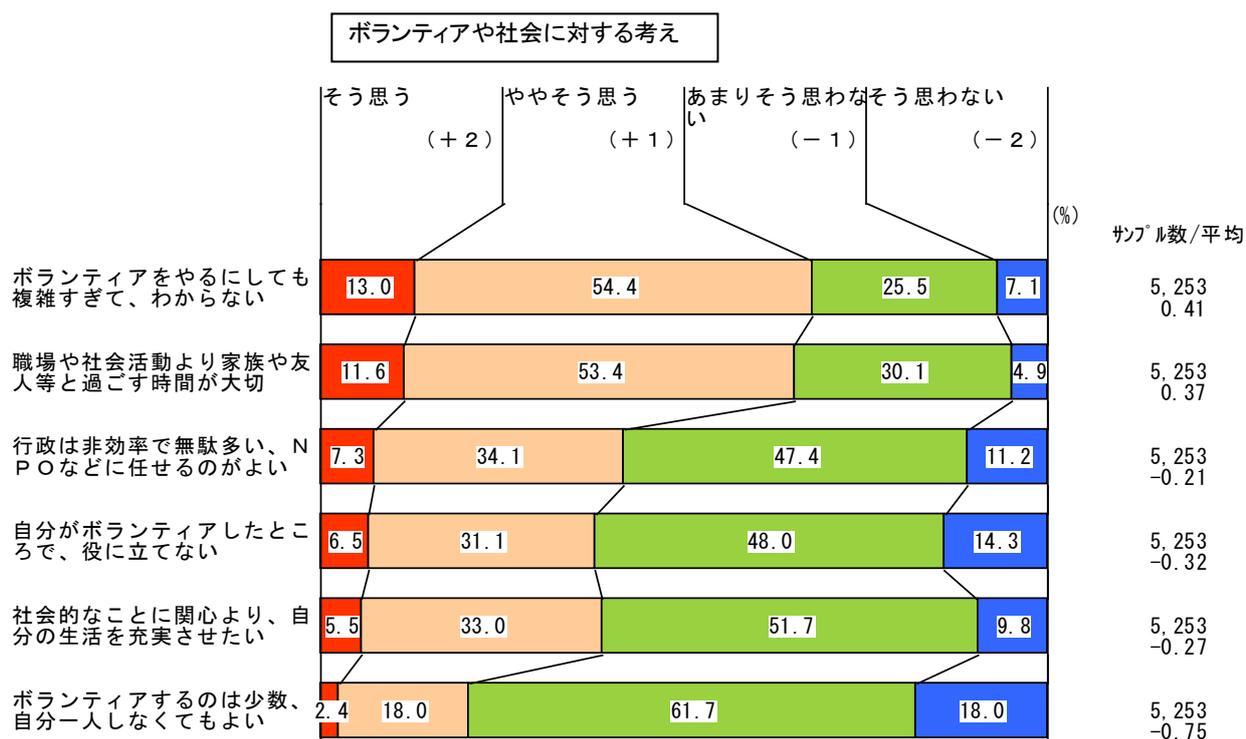
東日本大震災での活動状況別でみると、「ボランティア活動に参加した」では、参加すべきが88.0%と高く、「とくに何もしなかった」では、53.7%となっている。



## ボランティアや社会に対する考え

ボランティアや社会に対する考えについて、6項目の質問をした。

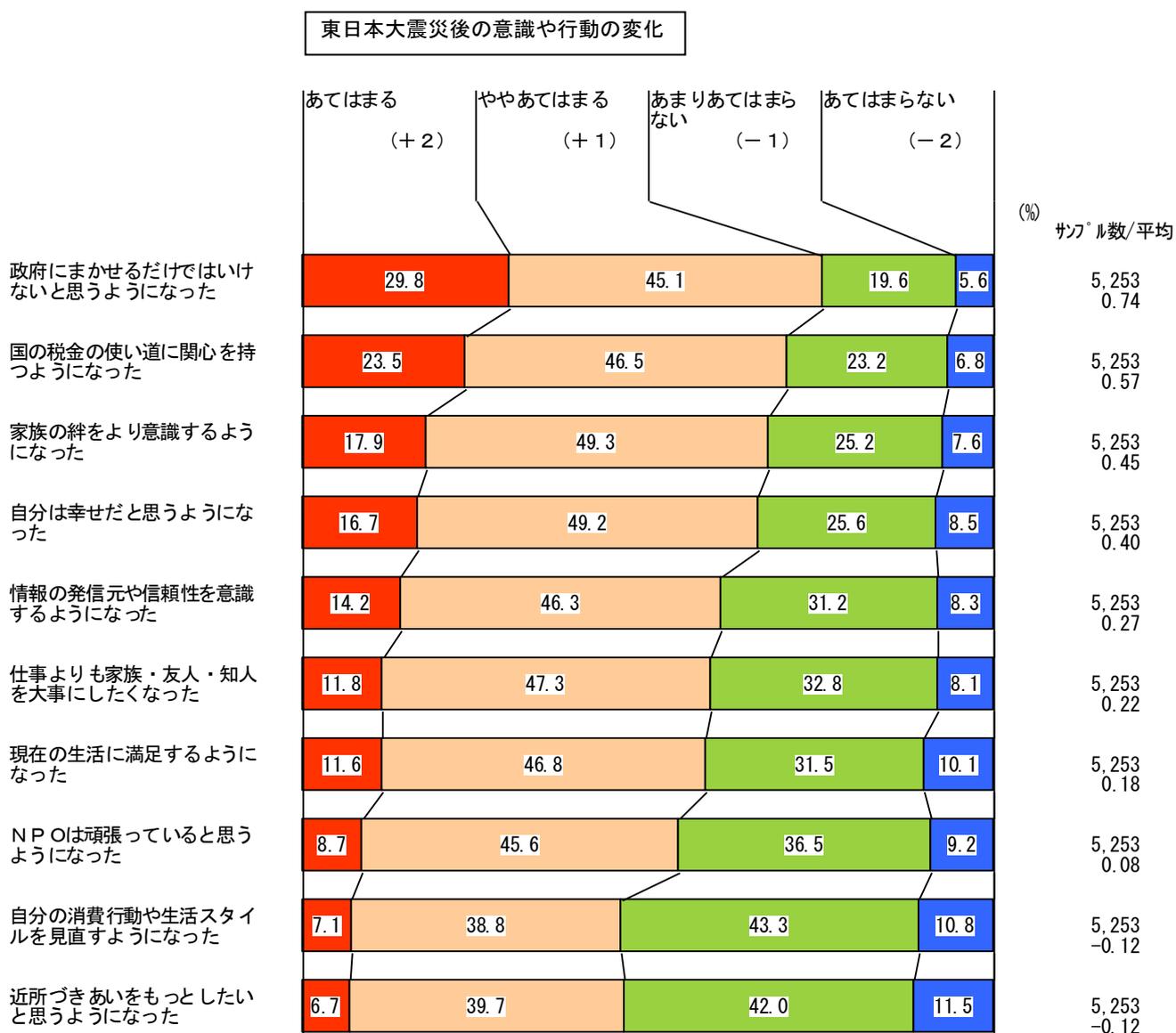
肯定者（そう思う＋ややそう思うの合計）が半数を超える項目は2項目で、「ボランティアをやるにしても複雑すぎて、わからない」（67.4%）、「職場や社会活動より家族や友人等と過ごす時間が大切」（65.0%）となっている。肯定者が最も低いのは、「ボランティアするのは少数、自分一人しなくてもよい」（20.4%）である。



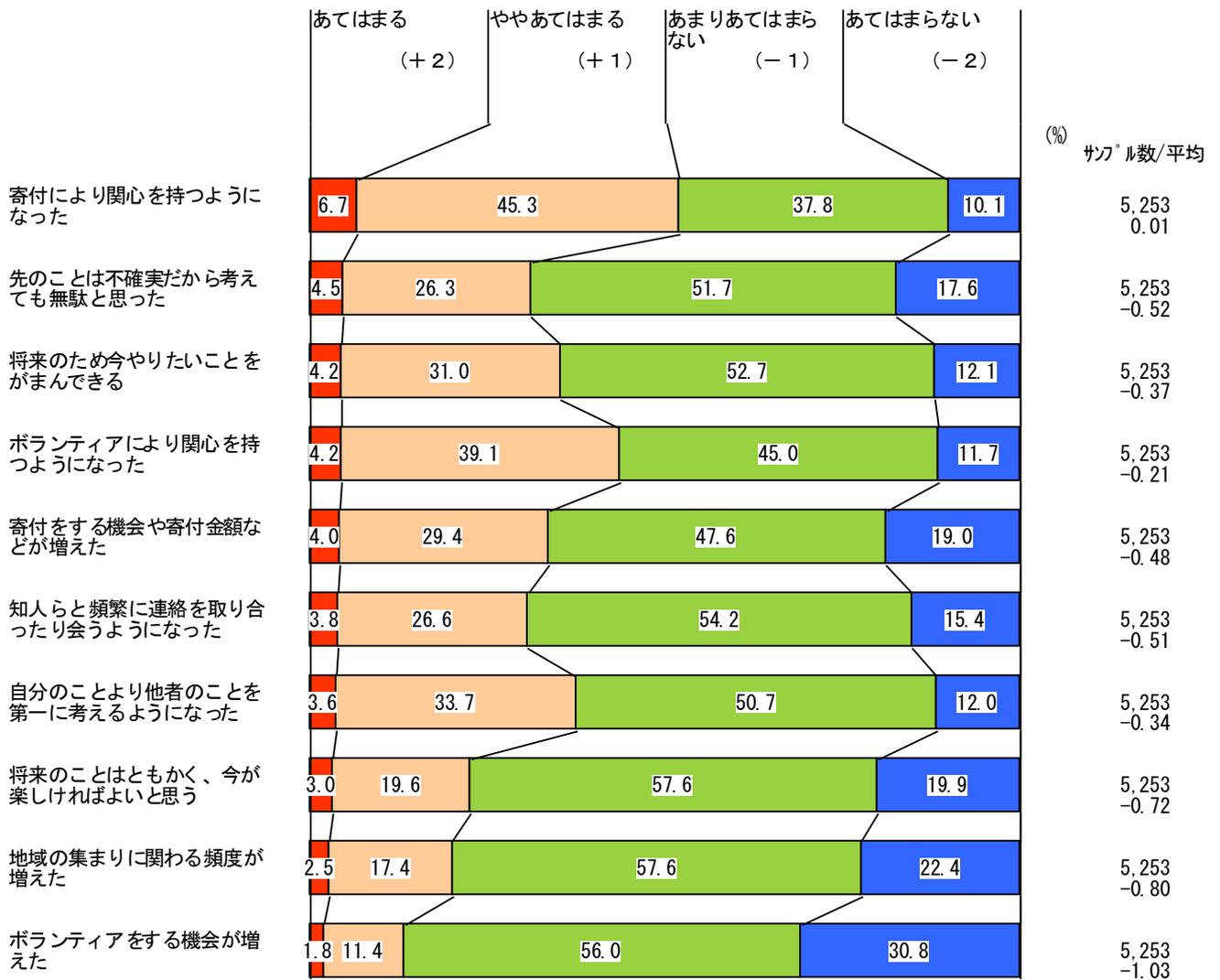
## 東日本大震災後の意識や行動の変化

東日本大震災後の意識や行動について、20項目の質問をした。

該当者（あてはまる＋ややあてはまるの合計）が半数を超える項目は9項目で、「あてはまる」割合の高い順に上げると、「政府にまかせるだけではないと思うようになった」、「国の税金の使い道に関心を持つようになった」、「家族の絆をより意識するようになった」、「自分は幸せだと思うようになった」、「情報の発信元や信頼性を意識するようになった」、「仕事よりも家族・友人・知人を大事にしたくなった」、「現在の生活に満足するようになった」、「NPOは頑張っていると思うようになった」、「寄付により関心を持つようになった」（次ページグラフ参照）である。

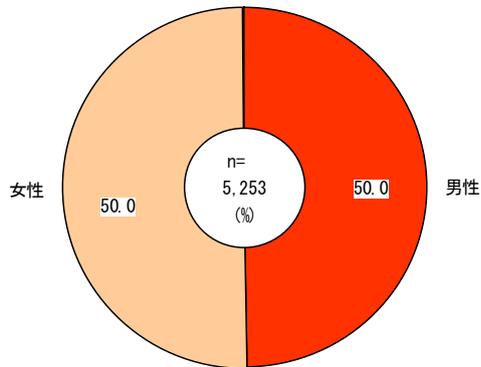


東日本大震災後の意識や行動の変化

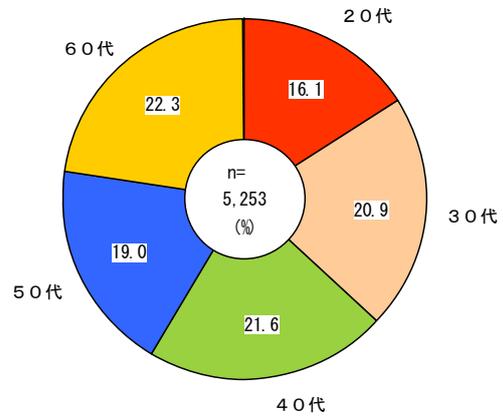


# 回答者属性

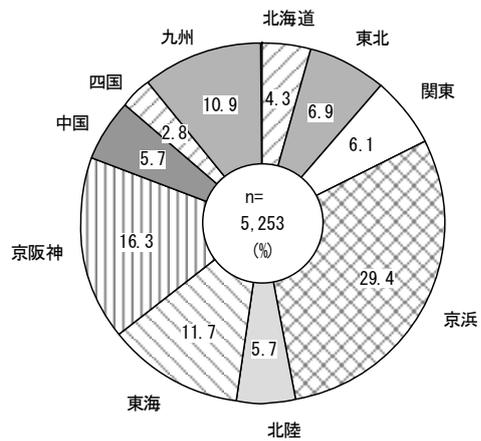
性別



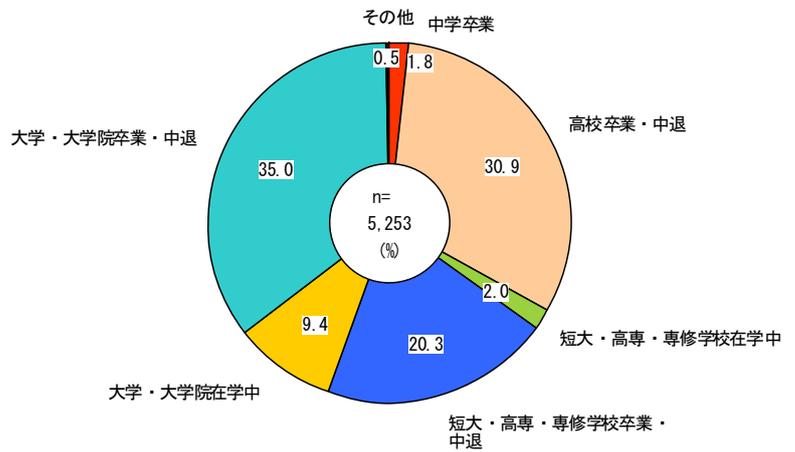
年代



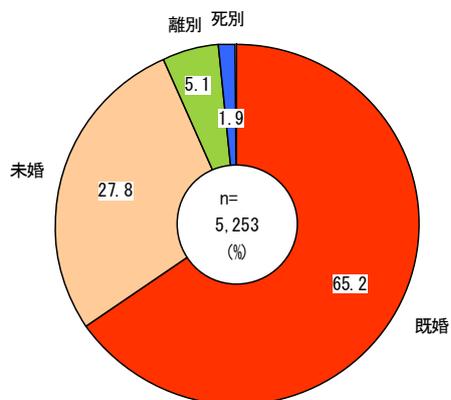
居住地区



最終学歴

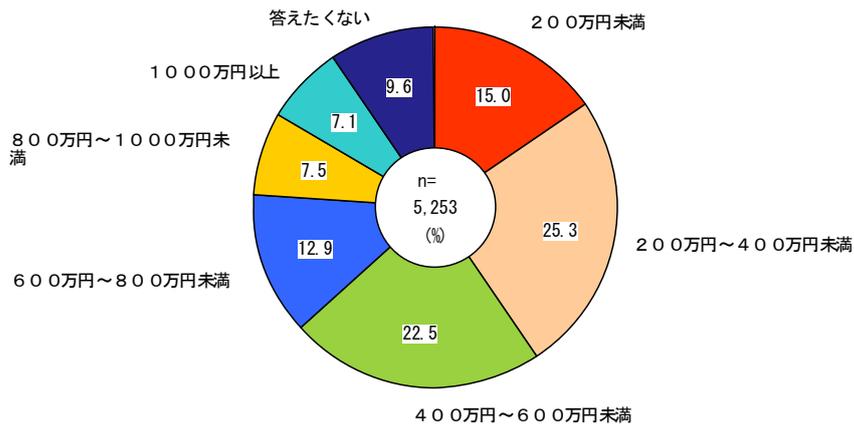
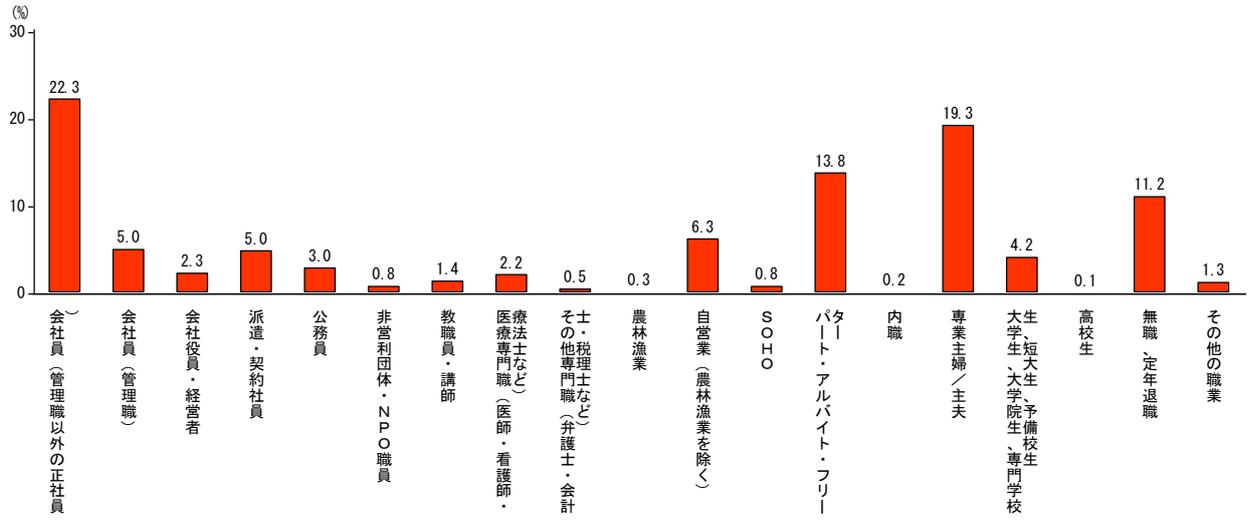


[属性] 未既婚



### 職業

■ TOTAL n=5,253



### 世帯年収

# MEMO



---

日本 NPO 学会震災特別プロジェクト  
震災後の寄付・ボランティア等に関する意識調査報告書

2013 年 2 月 ©日本 NPO 学会

編集・発行：日本 NPO 学会事務局

この冊子の全部または一部を許可なく転載することはできません。

ご質問・ご意見などありましたら下記のメールアドレスまでお願いいたします。

※本事業はタケダ・いのちとくらし再生プログラムの一環として実施しています。

**【E-mail】**

日本 NPO 学会事務局：janpora@osipp.osaka-u.ac.jp

**【ホームページ】**

日本 NPO 学会：<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/janpora/>

震災特別プロジェクト：<http://www2.osipp.osaka-u.ac.jp/janpora/shinsaitokubetsuproject/index.html>

---